資料3

2020年度 L2-Tech水準表（素案）

環境省
Ministry of the Environment

2020年度 L2-Tech水準表（素案）（2020年11月）

- 本水準表の作成にあたっては、カタログ等、企業が広く公表している資料及びWebページを中心に情報を収集し、当該技術に専門的知見を有する有識者からもご意見をいただきながら、科学技術的・客観的観点から情報を整理しています。
- 本水準表は、2020年11月までに収集した情報をもとに作成したものであり、今後も情報収集を継続するとともに、ご意見をいただき更新・充実させていく予定です。

項目		主な記載内容
L2-TechリストNo.		設備・機器等ごとにIDを付番。
区　分		以下のように、エネルギー源を示した「部門」軸と、エネルギー技術を原理・しくみの違いで整理した「技術」軸に区分。 部門1：当該設備・機器等の導入可能性の高い部門　部門2：当該設備・機器等の利用可能性の高い用途、業種、プロセス、輸送手段、エネルギー種別　技術分類：設備・機器等のカテゴリ（基本的な原理・しくみの種別） ※参照：環境省「日本の約束草案要綱（案）」、国立環境研究所「日本国温室効果ガスインベントリ報告書」、エネルギー戦略協議会「エネルギー技術体系」、日本エネルギー経済研究所「エネルギー・経済統計要覧」
設備・機器等		設備・機器等（システム、設備・機器、部材等）の名称を記載。2050年までに80%の温室効果ガス削減という目標に向けて、環境省がCO2削減に重要と考える設備・機器等（カテゴリ）を、「CO2削減効果」及び「導入可能性」の観点で選定。
原理・しくみ		設備・機器等の原理・しくみ、またはCO2削減に資する原理・しくみの説明を記載。
クラス		認証の単位となるクラスを記載。購買の選択条件に応じて、条件（仕様、付加機能等）及び能力（加熱能力、発電出力等）で分類。
認証対象		2019年度L2-Tech認証制度において、募集対象となる設備・機器等を「○（または●*1）」、募集対象外の設備・機器等を「-（ハイフン）」として記載。 *1 簡易申請の対象となり得るクラス（条件・能力）に付与（詳細は、実施要領等に記載）
L2-Tech水準表情報No.		クラスごとにIDを付番。
L2-Tech水準		L2-Tech水準を記載。本水準は、指定された試験条件に基づき測定された結果を、指定の計算方法によって算出した値である。本水準は、2019年11月時点における値であり、かつ収集できた情報のうち最高性能の値を採用している。なお、「*（アスタリスク）」が付与されているクラスは、根拠資料として試験結果報告書の提出を受付可能であることを示す。（詳細は、実施要領に記載）
指標	測定単位	L2-Tech水準の単位、及びその名称を記載。
	評価方法のタイプ	以下のいずれかから、効率性能の評価方法のタイプを記載。 標準規格による評価：JIS等の国際・日本標準の規格、または省エネ法等の法律に準拠した試験条件及び計算方法によって評価する方法　標準条件による評価：規格化されていないが一部で標準条件として用いられている、または標準として業界と合意した試験条件及び計算方法によって評価する方法　シミュレーションによる評価：標準条件に基づき、実試験ではなくコンピュータ上で模擬試験を行うによって評価する方法 具備機能による評価：一定レベル以上の機能を具備しているものを評価する方法
	計算方法	性能の計算方法について、準拠すべき規格または具体的な方法を記載。
	試験条件	性能を評価するための試験条件について、準拠すべき規格または具体的な条件を記載。
備考		特記事項等を記載。

記号の使用方法	本リスト中の「 - 」、「 ・ 」及び「 / 」は、下記を示す。 「 - 」：対象項目に該当する情報が存在しない、非対象、調査中、または不明。 「 ・ 」：AND条件。　例）　空調機（ヒートポンプ・個別方式）　→　（ヒートポンプかつ個別方式の）空調機 「 / 」：OR条件。　例）　空調/産業用プロセス　→　空調または産業用プロセス

区　分		L2-Tech リスト№	設備・機器等	（掲載数）
A 産業・業務（業種共通）	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	L-001301	ガスヒートポンプ	(5)
		L-001302	パッケージエアコン(店舗･オフィス用)	
		L-001303	パッケージエアコン(設備用)	
		L-001304	パッケージエアコン(ビル用マルチ)	
		L-001305	氷蓄熱式パッケージエアコン	
	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	L-001308	フロン類等冷媒ターボ冷凍機	(4)
		L-001309	自然冷媒ターボ冷凍機	
		L-001310	水冷ヒートポンプチラー	
		L-001311	空冷ヒートポンプチラー	
	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）・熱源補機	L-001313	氷蓄熱ユニット	(1)
	熱源・空調機（気化式・中央方式）	L-001315	間接気化式冷却器	(1)
	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	L-001316	吸収冷温水機（二重効用）	(4)
		L-001317	吸収冷温水機（三重効用）/廃熱投入型吸収冷温水機（三重効用）	
		L-001318	一重二重併用形吸収冷温水機	
		L-001319	木質ペレット直焚き吸収冷温水機（二重効用）	
	熱源・空調機（地中熱利用・中央方式）	L-001323	パッシブ地中熱利用システム	(1)
	熱源・空調機（吸着式・中央方式）	L-001324	吸着式冷凍機	(1)
	熱源（ヒートポンプ）	L-001325	高温水ヒートポンプ(空気熱源･循環式)	(10)
		L-001326	高温水ヒートポンプ(空気熱源･一過式)	
		L-001327	高温水ヒートポンプ(水熱源･循環式)	
		L-001328	高温水ヒートポンプ(水熱源･一過式)	
		L-001329	高温水ヒートポンプ(水空気熱源･循環式)	
		L-001330	高温水ヒートポンプ(水空気熱源･一過式)	
		L-001331	熱風ヒートポンプ(空気熱源･一過式)	
		L-001332	熱風ヒートポンプ(水熱源･一過/循環式)	
		L-001333	蒸気発生ヒートポンプ(水熱源･一過式)	
		L-001334	蒸気再圧縮装置	
	空調機（ペレットストーブ）	L-001336	密閉式ペレットストーブ	(1)
	空調フィルタ	L-001337	空調用ハイブリッドフィルタ	(1)
	給湯器（ヒートポンプ）	L-001338	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	(1)
	給湯器（ガス式）	L-001340	潜熱回収型給湯器	(1)
	ボイラ	L-001341	温水機	(6)
		L-001342	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	
		L-001343	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	
		L-001344	蒸気ボイラ(水管ボイラ)	
		L-001345	水素ボイラ(貫流ボイラ)	
		L-001346	熱媒ボイラ	
	コージェネレーション	L-001347	ガスエンジンコージェネレーション	(3)
		L-001348	ガスタービンコージェネレーション	
		L-001349	燃料電池コージェネレーション	
	冷凍冷蔵機器	L-001352	業務用冷凍冷蔵庫	(4)
		L-001353	空気冷媒方式冷凍機	
		L-001354	冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機（アンモニア/CO2二次冷媒システム）	
		L-001355	自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	
	照明器具	L-001356	LED照明器具	(1)
	プリンタ/複写機	L-001357	プリンタ	(2)
		L-001358	複合機	
	モータ	L-001359	誘導モータ	(2)
		L-001360	永久磁石同期モータ	
	変圧器	L-001361	油入変圧器	(2)
		L-001362	モールド変圧器	
	モータ利用機器（圧縮機）	L-001371	蒸気駆動圧縮機	(2)
		L-001372	熱回収式ねじ容積形圧縮機	
	窓	L-001385	Low-E複層ガラス	(7)
		L-001386	三層Low-E複層ガラス	
		L-001387	真空Low-E複層ガラス	
		L-001388	アタッチメント付きLow-E複層ガラス	
		L-001389	真空ガラス	
		L-001390	現場施工型後付けLow-E複層ガラス	
		L-001391	薄型Low-E複層ガラス	
	断熱材	L-001392	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	(3)
		L-001393	断熱材(グラスウール)	
		L-001395	低放射遮熱塗料	
		L-001394	真空断熱材	
	乾燥設備	L-001396	蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	(1)
	洗濯機	L-001397	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	(1)
	エネルギーマネジメントシステム	L-001401	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	(1)
	その他	L-001396	蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	(1)
		L-001408	サーバ用電子計算機	(1)
	その他	L-001414	農業等暖房用温水発生機	
	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	L-001420	油圧ショベル（内燃機関型）	(3)
		L-001421	ブルドーザ（内燃機関型）	
		L-001422	ホイールローダ（内燃機関型）	
	オフロード特殊自動車（建設機械・ハイブリッド型）	L-001058	油圧ショベル (ハイブリッド型)	(1)

区　分		L2-Tech リスト№	設備・機器等	（掲載数）
B 産業（業種固有）	オフロード特殊自動車（建設機械・電気型）	L-001427	油圧ショベル (電動型)	(2)
		L-001428	ブルドーザ(電動型)	
	洗浄乾燥機	L-001429	遠心脱水型コンテナ（容器）洗浄乾燥機	(1)
	蒸留塔	L-001441	内部熱交換最適化蒸留システム	(1)
	業務用冷凍機器	L-001430	低温用自然冷媒冷凍機（アンモニア/CO2二次冷媒システム）	(1)
	その他	L-001431	低温蒸気式加熱殺菌装置	(1)
	乾燥機	L-001432	熱回収式工業用繊編物乾燥機	(1)
	熱処理機	L-001433	熱回収式工業用繊編物熱処理機	(1)
	その他	L-001442	MVR型（自己蒸気機械圧縮型）蒸発濃縮装置	(1)
C 運輸	自動車（内燃機関型）	L-001466	ガソリン・ディーゼル車（乗用車）	(2)
		L-001467	ディーゼル・天然ガス車（商用車・重量車）	
	自動車（ハイブリッド型）	L-001469	ハイブリット自動車（乗用車）	(2)
		L-001470	ハイブリット自動車（商用車・重量車）	
	自動車（電気型）	L-001472	電気自動車（乗用車）	(1)
D 家庭	空調機（ヒートポンプ）	L-001511	ルームエアコン	(5)
		L-001512	ヒートポンプ冷温水システム	
		L-001513	ヒートポンプ式温水床暖房	
		L-001514	ルームエアコン付温水床暖房	
		L-001515	マルチタイプ温水床暖房	
	空調機（ヒートポンプ・地中熱利用）	L-001516	地中熱ルームエアコン	(2)
	空調機（ヒートポンプ・地中熱利用）	L-001517	地中熱ヒートポンプ冷温水システム（ハイブリッド式）	
	空調機（ペレットストーブ）	#N/A	密閉式ペレットストーブ(家庭用)	(1)
	給湯器（ヒートポンプ）	L-001480	家庭用エコキュート	(2)
		L-001481	多機能ヒートポンプ給湯機	
	給湯器（ヒートポンプ・太陽熱利用）	L-001519	太陽熱集熱器対応型エコキュート	(1)
	給湯器（ガス式）	L-001482	ガス温水機器（エコジョーズ）	(1)
	給湯器（ヒートポンプ・ガス式）	L-001520	ハイブリッド給湯機（家庭用）	(1)
	給湯器（石油式）	L-001521	石油温水機器（エコフィール）	(1)
	給湯器（太陽熱利用）	L-001523	真空管形集熱器（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	(3)
		L-001524	平板形集熱器（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	
		L-001525	蓄熱槽（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	
	コージェネレーション	L-001483	家庭用燃料電池（エネファーム・PEFC）	(2)
		L-001484	家庭用燃料電池（エネファーム・SOFC）	
	冷凍冷蔵機器	L-001485	電気冷蔵庫	(1)
	照明器具	L-001486	LED照明器具（家庭用）	(1)
	テレビ	L-001526	液晶テレビ	(1)
	洗濯機	L-001505	洗濯乾燥機	(1)
	電気便座	L-001527	電気便座	(1)
	窓	L-001487	Low-E複層ガラス（家庭用）	(14)
		L-001488	三層Low-E複層ガラス（家庭用）	
		L-001489	真空Low-E複層ガラス（家庭用）	
		L-001490	アタッチメント付きLow-E複層ガラス（家庭用）	
		L-001491	真空ガラス（家庭用）	
		L-001492	現場施工型後付けLow-E複層ガラス（家庭用）	
		L-001493	薄型Low-E複層ガラス（家庭用）	
		L-001494	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	
		L-001495	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	
		L-001496	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	
		L-001497	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	
		L-001498	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	
		L-001499	真空ガラス・樹脂サッシ	
		L-001500	真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	
	玄関ドア	L-001501	金属製玄関ドア	(1)
	断熱材	L-001502	断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	(3)
		L-001503	断熱材(家庭用・グラスウール)	
		#N/A	真空断熱材(家庭用)	
	エネルギーマネジメントシステム	L-001509	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	(1)
E エネルギー転換	燃料電池	L-001531	固体酸化物形燃料電池（SOFC）設備	(1)
	太陽光発電	L-001534	太陽電池(シリコン系・単結晶)	(6)
		L-001535	太陽電池(シリコン系・多結晶)	
		L-001536	太陽電池(化合物系)	
		L-001537	太陽電池（薄膜シリコン）	
		L-001538	トランスレス方式パワーコンディショナ（太陽光発電用）	
		L-001539	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ（太陽光発電用）	
	水力発電	L-001546	プロペラ水車（小水力発電用）	(2)
		L-001547	フランシス水車（小水力発電用）	
	地熱発電	L-001551	温水熱源小型バイナリー発電設備	(2)
		L-001552	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	
	バイオマス発電	L-001555	ガスエンジン発電設備（メタン発酵発電用）	(2)
		L-001556	ディーゼル発電設備（バイオディーゼル燃料専用）	
	熱輸送	L-001558	潜熱蓄熱輸送設備	(1)
F 廃棄物・リサイクル	リン回収設備	L-001579	リン回収設備HAP法（し尿・浄化槽汚泥用）	(3)
		L-001580	リン回収設備MAP法（し尿・浄化槽汚泥用）	
		L-001581	リン回収設備MAP法（下水汚泥用）	
	選別機	L-001583	近赤外線樹脂選別機	(1)

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001301	産業・業務（業種共通）	空調	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	ガスヒートポンプ	室外機内のコンプレッサの駆動をガスエンジンで行うヒートポンプ方式の空気調和機。	-	相当馬力数	7.5HP以下	S-005901	1.19	-	COPp	標準規格による評価	-	-	COPp=（Ccr+Chr）/2 Ccr=Φcr/(Gcr+Pcr/(3600/9760))、Chr=Φhr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr：冷房成績係数 Chr：暖房成績係数 Φcr：定格冷房標準能力(kW) Φhr：定格暖房標準能力(kW) Gcr：定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr：定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr：定格冷房標準消費電力(kW) Phr：定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015またはJISB8627:2006	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。
								7.5HP超10HP以下	S-005902	1.22									
								10HP超16HP以下	S-005903	1.33									
								16HP超25HP以下	S-005904	1.34									
								25HP超	S-005905	1.3									
								7.5HP以下	S-005906	-	-	期間成績係数（APFp）	標準規格による評価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠
								7.5HP超10HP以下	S-005907	1.39									
								10HP超16HP以下	S-005908	1.86									
								16HP超25HP以下	S-005909	1.98									
								25HP超	S-005910	1.91									
						寒冷地仕様	相当馬力数	7.5HP以下	S-005911	1.19	-	COPp	標準規格による評価	-	-	COPp=（Ccr+Chr）/2 Ccr=Φcr/(Gcr+Pcr/(3600/9760))、Chr=Φhr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr：冷房成績係数 Chr：暖房成績係数 Φcr：定格冷房標準能力(kW) Φhr：定格暖房標準能力(kW) Gcr：定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr：定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr：定格冷房標準消費電力(kW) Phr：定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015またはJISB8627:2006	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。
								7.5HP超10HP以下	S-005912	1.22									
								10HP超16HP以下	S-005913	1.34									
								16HP超25HP以下	S-005914	1.34									
								25HP超	S-005915	1.27									
								7.5HP以下	S-005916	-	-	期間成績係数（APFp）	標準規格による評価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠
								7.5HP超10HP以下	S-005917	1.39									
								10HP超16HP以下	S-005918	1.86									
								16HP超25HP以下	S-005919	1.93									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								25HP超	S-005920	1.85									
						発電機付	相当馬力数	7.5HP以下	S-005921	-	-	COPp	標準規格による評価	-	-	COPp=（Ccr+Chr）/2 Ccr=Φcr/(Gcr+Pcr/(3600/9760))、Chr=Φhr/(Ghr+Phr/(3600/9760)) Ccr：冷房成績係数 Chr：暖房成績係数 Φcr：定格冷房標準能力(kW) Φhr：定格暖房標準能力(kW) Gcr：定格冷房標準ガス消費量(kW) Ghr：定格暖房標準ガス消費量(kW) Pcr：定格冷房標準消費電力(kW) Phr：定格暖房標準消費電力(kW) ※COPpは、小数点3桁目を切捨て、小数点2桁目までを表示する。	JRA4067:2015または JISB8627:2006	いずれもガスヒートポンプ冷暖房機	JRA4067:2015またはJISB8627:2006に準拠。ただし、電源の周波数は、50Hzとする。
								7.5HP超10HP以下	S-005922	-									
								10HP超16HP以下	S-005923	1.34									
								16HP超25HP以下	S-005924	1.34									
								25HP超	S-005925	1.27									
								7.5HP以下	S-005926	-	-	期間成績係数（APFp）	標準規格による評価	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠	JISB8627:2015	ガスヒートポンプ冷暖房機	JISB8627:2015に準拠
								7.5HP超10HP以下	S-005927	-									
								10HP超16HP以下	S-005928	1.86									
								16HP超25HP以下	S-005929	1.97									
								25HP超	S-005930	1.91									
L-001302	産業・業務（業種共通）	空調	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	パッケージエアコン(店舗・オフィス用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が4～28kW程度。主に店舗・オフィス向け。	-	冷房能力	4.0kW以下	S-005931	8.1	-	通年エネルギー消費効率（APF）	標準規格による評価	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠
								4.0kW超 5.0kW以下	S-005932	7.9									
								5.0kW超 6.3kW以下	S-005933	8.1									
								6.3kW超 11.2kW以下	S-005934	7.3									
								11.2kW超 16.0kW以下	S-005935	6.8									
								16.0kW超	S-005936	6.3									
L-001303	産業・業務（業種共通）	空調	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	パッケージエアコン(設備用)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が9～140kW程度。主に工場向け。	-	冷房能力	28kW以下	S-005937	5	-	通年エネルギー消費効率（APF）	標準規格による評価	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠
								28kW超 45kW以下	S-005938	4.2									
								45kW超 56kW以下	S-005939	4.3									

L2-Tech リスト№	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報№	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								56kW超 80kW以下	S-005940	4									
								80kW超 112kW以下	S-005941	3.5									
								112kW超 140kW以下	S-005942	3.8									
								140kW超	S-005943	3.5									
						排熱利用型	冷房能力	9.8kW	S-005944	6.1	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8615-2	エアコンディショナー第２部：ダクト接続形エアコンディショナ及び空気対空気ヒートポンプ一定格性能及び運転性能試験方法	JISB8615-2に準拠	JISB8615-2	エアコンディショナー第２部：ダクト接続形エアコンディショナ及び空気対空気ヒートポンプ一定格性能及び運転性能試験方法	JISB8615-2に準拠。ただし、ユニット吸込温度については55℃とする。
L-001304	産業・業務（業種共通）	空調	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	パッケージエアコン(ビル用マルチ)	電動圧縮機を用いるヒートポンプ式の空気調和機で、冷房能力が14～120kW程度。主にビル向け。室内機ごとの個別制御機能を持つ。	-	冷房能力	14.0kW以下	S-005945	6.8	-	通年エネルギー消費効率（APF）	標準規格による評価	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠	JISB8616:2015	パッケージエアコンディショナ	JISB8616:2015に準拠
								14.0kW超 16.0kW以下	S-005946	6.7									
								16.0kW超 22.4kW以下	S-005947	6.7									
								22.4kW超 28.0kW以下	S-005948	6.4									
								28.0kW超 33.5kW以下	S-005949	6.4									
								33.5kW超 40.0kW以下	S-005950	6.4									
								40.0kW超 56.0kW以下	S-005951	6.5									
								56.0kW超 69.0kW以下	S-005952	6.4									
								69.0kW超 80.0kW以下	S-005953	6.5									
								80.0kW超 90.0kW以下	S-005954	6.4									
								90.0kW超	S-005955	6.4									
L-001305	産業・業務（業種共通）	空調	空調機（ヒートポンプ・個別方式）	氷蓄熱式パッケージエアコン	パッケージエアコンの室外ユニットと室内ユニットの間に氷蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	-	蓄熱利用冷房能力	14.0kW以下	S-005956	3.64	-	日量蓄熱利用冷房効率	標準規格による評価	JRA4053:2007	氷蓄熱式パッケージエアコンディショナ	JRA4053:2007に準拠	JRA4053:2007	氷蓄熱式パッケージエアコンディショナ	JRA4053:2007に準拠
								14.0kW超16.0kW以下	S-005957	-									
								16.0kW超22.4kW以下	S-005958	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								22.4kW超28.0kW以下	S-005959	-									
								28.0kW超45.0kW以下	S-005960	-									
								45.0kW超56.0kW以下	S-005961	-									
								56.0kW超80.0kW以下	S-005962	-									
								80.0kW超112.0kW以下	S-005963	-									
								112.0kW超	S-005964	2.6									
L-001308	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	フロン類等冷媒ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。HFC冷媒またはHFO冷媒を使用している。	-	冷却能力	200RT未満	S-005965	6.7 *	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
								200RT以上250RT未満	S-005966	9.2 *									
								250RT以上300RT未満	S-005967	9.4 *									
								300RT以上350RT未満	S-005968	9.41 *									
								350RT以上400RT未満	S-005969	9.4 *									
								400RT以上500RT未満	S-005970	9.63 *									
								500RT以上600RT未満	S-005971	9.55 *									
								600RT以上700RT未満	S-005972	9.3 *									
								700RT以上1000RT未満	S-005973	9.9 *									
								1000RT以上1500RT未満	S-005974	9.59 *									
								1500RT以上	S-005975	9.29 *									
								200RT未満	S-005976	6.17 *	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
								200RT以上250RT未満	S-005977	6.34 *									
								250RT以上300RT未満	S-005978	6.4 *									
								300RT以上350RT未満	S-005979	6.4 *									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								350RT以上400RT未満	S-005980	6.28 *									
								400RT以上500RT未満	S-005981	6.6 *									
								500RT以上600RT未満	S-005982	6.5 *									
								600RT以上700RT未満	S-005983	6.36 *									
								700RT以上1000RT未満	S-005984	6.45 *									
								1000RT以上1500RT未満	S-005985	6.61 *									
								1500RT以上	S-005986	6.66 *									
L-001309	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	自然冷媒ターボ冷凍機	蒸発器、圧縮機、凝集器、弁からなる。蒸発器内の冷媒を蒸発させ蒸発器内のパイプの中の循環水を冷やし、冷水として取り出して使用する機器。蒸発した冷媒は圧縮機で昇圧され、凝縮器内の冷却水で凝縮され液体に戻る。従来はHFC冷媒が使用されるケースが多いが、本設備・機器等は自然冷媒である水が使用されている。公共スペース、地下街、及び医療機関での使用が期待されている。	-	冷却能力	200RT未満	S-005987	7.36 *	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠	JISB8621:2011	遠心冷凍機	JISB8621:2011に準拠
								300RT以上400RT未満	S-005988	-									
L-001310	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	水冷ヒートポンプチラー	水を熱源としたヒートポンプ方式の水冷式チリングユニット。	-	冷却能力	40.0kW以下	S-005989	4.48	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								40.0kW超80.0kW以下	S-005990	4.28									
								80.0kW超118.0kW以下	S-005991	5.41									
								118.0kW超180.0kW以下	S-005992	5.28									
								180.0kW超500.0kW以下	S-005993	5.57									
								500.0kW超1000.0kW以下	S-005994	6									
								1000.0kW超1500.0kW以下	S-005995	5.22									
						ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	40.0kW以下	S-005996	3.28	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については3℃、ブライン出口温度については0℃とする。
								40.0kW超80.0kW以下	S-005997	2.65									
								80.0kW超118.0kW以下	S-005998	-									
								118.0kW超180.0kW以下	S-005999	-									

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報№	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								180.0kW超500.0kW以下	S-006000	-									
								500.0kW超1000.0kW以下	S-006001	-									
								1000.0kW超1500.0kW以下	S-006002	-									
						ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	40.0kW以下	S-006003	2.24	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。
								40.0kW超80.0kW以下	S-006004	2.61									
								80.0kW超118.0kW以下	S-006005	2.54									
								118.0kW超180.0kW以下	S-006006	2.53									
								180.0kW超500.0kW以下	S-006007	2.49									
								500.0kW超1000.0kW以下	S-006008	-									
								1000.0kW超1500.0kW以下	S-006009	-									
						ブライン仕様、ブライン入口温度0℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	40.0kW以下	S-006010	2.37	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については0℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
								40.0kW超80.0kW以下	S-006011	2.9									
								80.0kW超118.0kW以下	S-006012	3.2									
								118.0kW超180.0kW以下	S-006013	3.21									
								180.0kW超500.0kW以下	S-006014	3.21									
								500.0kW超1000.0kW以下	S-006015	2.72									
								1000.0kW超1500.0kW以下	S-006016	-									
L-001311	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）	空冷ヒートポンプチラー	空気を熱源としたヒートポンプ方式の空冷式チリングユニット。	-	冷却能力	19.0kW以下	S-006017	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠
								19.0kW超25.0kW以下	S-006018	-									
								25.0kW超37.5kW以下	S-006019	-									
								37.5kW超50.0kW以下	S-006020	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								50.0kW超60.0kW以下	S-006021	-									
								60.0kW超90.0kW以下	S-006022	6.4									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006023	6									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006024	5.7									
								160.0kW超	S-006025	5.3									
								60.0kW以下	S-006026	3.85	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	S-006027	4.07									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006028	4									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006029	4									
								160.0kW超	S-006030	4.3									
						出口温度60℃	加熱能力	60.0kW以下	S-006031	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、出口温度は60℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006032	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006033	2.76									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006034	2.59									
								160.0kW超	S-006035	2.54									
						ブライン仕様、ブライン入口温度0℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006036	-	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については0℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006037	2.84									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006038	2.68									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006039	2.64									
								160.0kW超	S-006040	2.79									
						ブライン仕様、ブライン入口温度0℃、ブライン出口温度-5℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-006041	-	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については0℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006042	2.9									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								90.0kW超120.0kW以下	S-006043	2.75									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006044	-									
								160.0kW超	S-006045	-									
						ブライン仕様、ブライン入口温度-2℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006046	2.78	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994または JRA4066:2014	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-2℃、ブライン出口温度については-5℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006047	2.78									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006048	2.72									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006049	2.63									
								160.0kW超	S-006050	2.72									
						ブライン仕様、ブライン入口温度3℃、ブライン出口温度0℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006051	2.45	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については3℃、ブライン出口温度については0℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006052	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006053	-									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006054	-									
								160.0kW超	S-006055	-									
						ブライン仕様、ブライン入口温度-3℃、ブライン出口温度-7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006056	3.08	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-3℃、ブライン出口温度については-7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006057	2.82									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006058	2.68									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006059	-									
								160.0kW超	S-006060	-									
						寒冷地仕様	冷却能力	60.0kW以下	S-006061	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994または JRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	S-006062	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006063	-									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006064	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								160.0kW超	S-006065	-									
								60.0kW以下	S-006066	-	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	S-006067	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006068	-									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006069	3.42									
								160.0kW超	S-006070	-									
						出口温度60℃　寒冷地仕様	加熱能力	60.0kW以下	S-006071	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、出口温度は60℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006072	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006073	2.51									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006074	2.58									
								160.0kW超	S-006075	2									
						寒冷地仕様、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-006076	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	S-006077	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006078	-									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006079	-									
								160.0kW超	S-006080	-									
								60.0kW以下	S-006081	-	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	S-006082	-									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006083	-									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006084	4.12									
								160.0kW超	S-006085	-									
						散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-006086	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								60.0kW超90.0kW以下	S-006087	6.6									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006088	6.4									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006089	6.1									
								160.0kW超	S-006090	6									
								60.0kW以下	S-006091	4.86	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠
								60.0kW超90.0kW以下	S-006092	6.2									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006093	5.46									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006094	4.86									
								160.0kW超	S-006095	6									
						散水式、冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006096	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超 90.0kW以下	S-006097	7									
								90.0kW超 120.0kW以下	S-006098	6.7									
								120.0kW超 160.0kW以下	S-006099	6.5									
								160.0kW超	S-006100	6.3									
								60.0kW以下	S-006101	5.04	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超 90.0kW以下	S-006102	6.39									
								90.0kW超 120.0kW以下	S-006103	5.65									
								120.0kW超 160.0kW以下	S-006104	5.04									
								160.0kW超	S-006105	6.3									
						冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006106	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006107	6									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006108	6									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								120.0kW超160.0kW以下	S-006109	5.7									
								160.0kW超	S-006110	5.6									
								60.0kW以下	S-006111	4	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006112	4.14									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006113	3.86									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006114	3.5									
								160.0kW超	S-006115	3.35									
						冷房専用	冷却能力	19.0kW以下	S-006116	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。
								19.0kW超25.0kW以下	S-006117	-									
								25.0kW超37.5kW以下	S-006118	-									
								37.5kW超50.0kW以下	S-006119	-									
								50.0kW超60.0kW以下	S-006120	-									
								60.0kW超90.0kW以下	S-006121	5.7									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006122	6									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006123	5.7									
								160.0kW超	S-006124	5.3									
								60.0kW以下	S-006125	3.67	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠 JRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006126	4.07									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006127	3.81									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006128	4									
								160.0kW超	S-006129	5.3									
						冷房専用、ブライン仕様、ブライン入口温度-2℃、ブライン出口温度-5℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006130	2.78	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、ブライン入口温度については-2℃、ブライン出口温度については-5℃とする。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								60.0kW超90.0kW以下	S-006131	2.78									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006132	2.72									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006133	-									
								160.0kW超	S-006134	-									
						冷房専用、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-006135	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006136	6.6									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006137	6.4									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006138	6.1									
								160.0kW超	S-006139	6									
								60.0kW以下	S-006140	4.86	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006141	6.2									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006142	5.46									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006143	4.86									
								160.0kW超	S-006144	6									
						冷房専用、冷水出入口温度差7℃	冷却能力	60.0kW以下	S-006145	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006146	6									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006147	6									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006148	5.7									
								160.0kW超	S-006149	5.6									
								60.0kW以下	S-006150	4.01	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006151	4.14									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006152	3.86									

L2-Tech リスト№	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報№	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力（名称）	クラス 能力（単位）			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								120.0kW超160.0kW以下	S-006153	3.5									
								160.0kW超	S-006154	3.61									
						冷房専用、冷水出入口温度差7℃、散水式	冷却能力	60.0kW以下	S-006155	-	-	期間成績係数（IPLV）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006156	7									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006157	6.7									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006158	6.5									
								160.0kW超	S-006159	6.3									
								60.0kW以下	S-006160	5.04	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠	JISB8613:1994またはJRA4066:2014	いずれもウォータチリングユニット	JISB8613:1994またはJRA4066:2014に準拠。ただし、冷水出入口温度差については7℃とする。
								60.0kW超90.0kW以下	S-006161	6.39									
								90.0kW超120.0kW以下	S-006162	5.65									
								120.0kW超160.0kW以下	S-006163	5.04									
								160.0kW超	S-006164	6.3									
L-001313	産業・業務（業種共通）	空調	熱源・空調機（ヒートポンプ・中央方式）・熱	氷蓄熱ユニット	中央方式の空調機における熱源機とは別に氷蓄熱槽を持っており、夜間の冷房を使っていない時間帯に、氷蓄熱槽の熱交換器で氷を作り、昼間の冷房運転時には、室外ユニットを通った冷媒を氷蓄熱槽の熱交換器でさらに冷やしてから室内機に送ることによって利用する。2050年に向けた再生可能エネルギー発電の最大活用に資することが期待される。	-	定格日量冷却能力	1000kW h 以下	S-006165	-	-	日量成績係数	標準規格による評価	JRA4044:2005	氷蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠	JRA4044:2005	氷蓄熱ユニット	JRA4044:2005に準拠
								1000kW h 超2000kWh以下	S-006166	-									
								2000kWh超3000kWh以下	S-006167	-									
								3000kWh超4000kWh以下	S-006168	-									
								4000kWh超5000kWh以下	S-006169	-									
								5000kWh超	S-006170	-									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001315	産業・業務（業種共通）	空調	熱源・空調機（気化式・中央方式）	間接気化式冷却器	間接気化式冷却器は、隔壁で仕切られたDRY流路とWET流路を多数積層した構造からなる。WET側の隔壁面は水を浸した湿潤壁である。ここでDRY流路に高温空気をWET流路には低湿空気又は常温空気を流すことで、WET流路で気化熱現象を生じさせ、隔壁の温度が低下するため隣り合うDRY流路を流れる空気の熱が隔壁に伝達し絶対湿度の移行がなく冷却される。この冷却に用いるエネルギーは搬送動力と気化蒸発に使用する水のみのため、省エネ性が高く、CO2排出量を削減できる機器である。既に食品工場・生産工場・ショッピングセンターを中心に導入が進んでおり、今後データセンター向けに更なる普及が期待される。	-	冷房能力	14.0kW以下	S-006171	34.4 *	-	成績係数（COP）	シミュレーションによる評価	JRA4066:2014	ウォータチリングユニット	JRA4066:2014に準拠	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015	ウォータチリングユニット及びエアコンディショナ-第２：ダクト接続形エアコンディショナと空気対空気ヒートポンプ定格性能及び運転性能試験	JRA4066:2014及びJISB8615-2: 2015に準拠
								14.0kW超16.0kW以下	S-006172	34.5 *									
								16.0kW超22.4kW以下	S-006173	34.8 *									
								22.4kW超28.0kW以下	S-006174	34.9 *									
								28.0kW超33.5kW以下	S-006175	34.9 *									
								33.5kW超40.0kW以下	S-006176	35 *									
								40.0kW超60.0kW以下	S-006177	35.2 *									
								60.0kW超80.0kW以下	S-006178	35 *									
								80.0kW超100.0kW以下	S-006179	35.1 *									
								100.0kW超120.0kW以下	S-006180	35.2 *									
								120.0kW超140.0kW以下	S-006181	35.1 *									
								140.0kW超160.0kW以下	S-006182	35.1 *									
								160.0kW超200.0kW以下	S-006183	35.1 *									
								200.0kW超240.0kW以下	S-006184	35.1 *									
								240.0kW超280.0kW以下	S-006185	35.1 *									
						分流型	冷却能力	14.0kW以下	S-006186	11.1 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	JRA4066:2014およびJIS B 8615-2	ウォータチリングユニットおよびエアコンディショナ	標準条件による評価	JRA4066:2014およびJIS B 8615-2	ウォータチリングユニットおよびエアコンディショナ	日本冷凍空調工業会、又は日本規格協会の指定の規格によって試験および効率の計算を行う。 ただし、本設備は水熱源としながらもヒートポンプがないため、一部抜粋での試験条件とし、新たな試験項目は追加する。 【空気条件】 JIS B 8615-2
								14.0kW超16.0kW以下	S-006187	11 *									
								16.0kW超22.4kW以下	S-006188	11 *									
								22.4kW超28.0kW以下	S-006189	11.1 *									
								28.0kW超33.5kW以下	S-006190	11 *									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								33.5kW超40.0kW以下	S-006191	11 *									
								40.0kW超60.0kW以下	S-006192	11 *									
								60.0kW超80.0kW以下	S-006193	11 *									
								80.0kW超100.0kW以下	S-006194	11 *									
								100.0kW超120.0kW以下	S-006195	11 *									
								120.0kW超140.0kW以下	S-006196	11 *									
								140.0kW超160.0kW以下	S-006197	11 *									
								160.0kW超200.0kW以下	S-006198	11 *									
L-001316	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	吸収冷温水機（二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するもの。	節電型(冷却水量原単位0.7m3/h、RT以下)、冷水入口温度15℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	S-006199	1.48 *	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JIS8622:2009またはJIS8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	S-006200	1.48 *									
								1000RT超	S-006201	1.41 *									
						冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	S-006202	1.48	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JIS8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	S-006203	1.48									
								1000RT超	S-006204	1.48									
L-001317	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	吸収冷温水機（三重効用）/廃熱投入型吸収冷温水機（三重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、中温、低温再生器を有するもの。	冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	-	-	S-006205	1.74	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JIS8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
L-001318	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	一重二重併用形吸収冷温水機	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、排熱を熱源として利用し、燃料削減率が20%以上のもの。	節電型(冷却水量原単位0.7m3/h、RT以下)、冷水入口温度15℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	S-006206	1.47	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JIS8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								80RT超1000RT以下	S-006207	1.47									
								1000RT超	S-006208	-									
						冷水入口温度12℃、冷水出口温度7℃	冷房能力	80RT以下	S-006209	1.47	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠	JISB8622:2009またはJISB8622:2016	吸収式冷凍機	JISB8622:2009またはJISB8622:2016に準拠
								80RT超1000RT以下	S-006210	1.47									
								1000RT超	S-006211	-									
L-001319	産業・業務（業種共通）	空調	熱源・空調機（吸収式・中央方式）	木質ペレット直焚き吸収冷温水機（二重効用）	吸収力の高い液体に冷媒を吸収させることにより生じる低圧を利用して水を気化させ、気化熱から生じる低温を得る冷凍機であり、高温、低温再生器を有するものの内、加熱源の燃料に木質ペレットを使用するもの。中央方式を採用する業務施設の冷暖房に使用される。	-	冷房能力	80RT以下	S-006212	1.04	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JIS B 8622：2009	吸収冷凍機	JIS B 8622：2009に準拠、ただし、成績係数は冷凍能力を加熱源消費熱量で除したものとし、消費電力は除外することとする。	JIS B 8622：2009	吸収冷凍機	JIS B 8622：2009に準拠
								80RT超1000RT以下	S-006213	-									
								1000RT超	S-006214	-									
L-001323	産業・業務（業種共通）	空調	熱源・空調機（地中熱利用・中央方式）	パッシブ地中熱利用システム	熱交換パイプ、制御盤、ポンプ、ファンからなる。地下水又は温水をスパイラル状に通水できるパイプを地下2mに埋設し送風をすることで、空気と地中熱・水の熱と熱交換を行い温風、冷風を送風する機器。一般的には通風部のみあるクールチューブやアースチューブなどと呼ばれる空調機が存在する。こういったシステムと比べて、水が持つ熱との熱交換が加わったことで、熱交換量が飛躍的に増え、大空間の空調を行えるようになった。	-	冷房能力	6.4kW	S-006215	-	-	成績係数（COP）	シミュレーションによる評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、入気温度、吹き出し温度、給水温度、戻り水温度については、以下の通り設定することを条件とする。入気温度35℃、吹き出し温度27℃、給水温度：15℃、戻り水温度：15℃
								8.2kW	S-006216	-									
								10.9kW	S-006217	15.57 *									
								12.8kW	S-006218	-									
								21.9kW	S-006219	-									
								29.2kW	S-006220	-									
								36.5kW	S-006221	-									
L-001324	産業・業務（業種共通）	空調/産業用プロセス	熱源・空調機（吸着式・中央方式）	吸着式冷凍機	吸着器内部に充填された吸着剤に冷媒を吸着させ、冷媒の蒸発を促し、その気化熱から冷凍効果を得る冷凍機。	熱源入口温度58℃	-	-	S-006222	16.2 *	-	電力COP	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W] 注：上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、冷水出口温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。冷水出口温度：15℃、冷却水入口温度：27℃、熱源入口温度：58℃ 注：上記のCOPは電力COPである
						熱源入口温度：68℃	冷却能力	2.5kW以上25kW未満	S-006223	25.7 *	-	電力COP	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー[W] 注：上記のCOPは電力COPである	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、 冷水出口温度、冷却水入口温度、熱源入口温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。 冷水出口温度：15℃ 冷却水入口温度：27℃ 熱源入口温度：68℃ 注：上記のCOPは電力COPである
								25kW以上50kW未満	S-006224	25 *									
								50kW以上	S-006225	26.1 *									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単位	名称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説明
L-001325	産業・業務（業種共通）	給湯/産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ(空気熱源・循環式)	空気を熱源とし、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度16℃、湿球温度12℃、温水出入口温度差5℃	-	-	S-006226	3.09 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、湿球温度：12℃、温水出入口温度差：5℃
						温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差10℃	-	-	S-006227	3.63 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃以上70℃以下 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：10℃
						温水出口温度65℃以上70℃以下、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差5℃	-	-	S-006228	3.3 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃以上70℃以下 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃
						温水出口温度60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃	-	-	S-006229	3.07	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度60℃、乾球温度16℃、温水出入口温度差5℃
L-001326	産業・業務（業種共通）	給湯/産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	S-006230	4.2 *	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
L-001327	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ(水熱源・循環式)	水を熱源とし、遠心式、または回転式圧縮機を使用して、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006231	3.4 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-006232	-									
								350kW超540kW以下	S-006233	3.2 *									
								540kW超	S-006234	-									
						温水出口温度65℃、熱源水入口温度17℃以上30℃以下、熱源水出口温度7℃以上20℃以下、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006235	4.3 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：17℃以上30℃以下 熱源水出口温度：7℃以上20℃以下 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-006236	-									
								350kW超540kW以下	S-006237	4.4 *									
								540kW超	S-006238	-									
						温水出口温度65℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006239	3.6 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃、熱源水出口温度：15℃以上17℃以下、温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006240	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式		準拠する規格	規格の名称	説 明
								350kW超540kW以下	S-006241	3.7 *										
								540kW超	S-006242	-										
						温水出口温度65℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃以上30℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006243	4.2 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上30℃以下 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006244	-										
								350kW超540kW以下	S-006245	-										
								540kW超	S-006246	4.8 *										
						温水出口温度65℃、熱源水入口温度38℃以上40℃以下、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006247	5.1 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：38℃以上40℃以下 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006248	-										
								350kW超540kW以下	S-006249	-										
								540kW超	S-006250	-										
						温水出口温度65℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006251	4.9 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-006252	-										
								350kW超540kW以下	S-006253	-										
								540kW超	S-006254	5.8 *										
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度20℃、熱源水出口温度15℃以上17℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006255	3.1 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：20℃ 熱源水出口温度：15℃以上17℃以下 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006256	-										
								350kW超540kW以下	S-006257	-										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件			
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								540kW超	S-006258	-									
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度20℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006259	3.7 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：20℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-006260	-									
								350kW超540kW以下	S-006261	-									
								540kW超	S-006262	-									
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃以上27℃以下、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006263	3.7 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃以上27℃以下 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006264	-									
								350kW超540kW以下	S-006265	-									
								540kW超	S-006266	-									
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度35℃以上40℃以下、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006267	3.9 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：35℃以上40℃以下 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-006268	4.3 *									
								350kW超540kW以下	S-006269	-									
								540kW超	S-006270	-									
						温水出口温度75℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006271	4.44 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006272	-									
								350kW超540kW以下	S-006273	-									
								540kW超	S-006274	-									
						温水出口温度90℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006275	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								270kW超350kW以下	S-006276	2.75 *									
								350kW超540kW以下	S-006277	-									
								540kW超	S-006278	-									
						温水出口温度90℃、熱源水入口温度30℃、熱源水出口温度25℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006279	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：30℃ 熱源水出口温度：25℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006280	3.1 *									
								350kW超540kW以下	S-006281	-									
								540kW超	S-006282	-									
						温水出口温度90℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度30℃、温水出入口温度差10℃	加熱能力	270kW以下	S-006283	3 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：30℃ 温水出入口温度差：10℃
								270kW超350kW以下	S-006284	-									
								350kW超540kW以下	S-006285	3.5 *									
								540kW超	S-006286	-									
						温水出口温度90℃、熱源水入口温度40℃、熱源水出口温度35℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006287	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：90℃ 熱源水入口温度：40℃ 熱源水出口温度：35℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006288	-									
								350kW超540kW以下	S-006289	-									
								540kW超	S-006290	-									
						温水出口温度45℃、熱源水入口温度25℃、熱源水出口温度12.5℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006291	4.81 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：25℃ 熱源水出口温度：12.5℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006292	-									
								350kW超540kW以下	S-006293	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件			
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								540kW超	S-006294	-									
						温水出口温度45℃、熱源水入口温度0℃、熱源水出口温度-3℃、温水出入口温度差5℃	加熱能力	270kW以下	S-006295	3.06 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：45℃ 熱源水入口温度：0℃ 熱源水出口温度：-3℃ 温水出入口温度差：5℃
								270kW超350kW以下	S-006296	-									
								350kW超540kW以下	S-006297	-									
								540kW超	S-006298	-									
L-001328	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ(水熱源・一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	-	-	-	S-006299	4.3 *	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
						水熱源運転、温水出口温度70℃、熱源水入口温度50℃、熱源水出口温度38.6℃、温水出入口温度差50℃	-	-	S-006300	10.2 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：70℃ 熱源水入口温度：50℃ 熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度差：50℃
						水熱源運転、温水出口温度70℃、熱源水入口温度35℃、熱源水出口温度25℃、温水出入口温度差50℃	-	-	S-006301	6.2 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：70℃、熱源水入口温度：35℃、熱源水出口温度：25℃、温水出入口温度差：50℃
						水熱源運転、温水出口温度60℃、熱源水入口温度25℃、熱源水出口温度15℃、温水出入口温度差40℃	-	-	S-006302	4.6 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：60℃、熱源水入口温度：25℃、熱源水出口温度：15℃、温水出入口温度差：40℃
L-001329	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ(水空気熱源・循環式)	空気、または水を熱源とでき、循環式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	空気熱源運転、温水出口温度65℃、乾球温度25℃、湿球温度21℃、温水出入口温度差5℃	-	-	S-006303	3.2 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、乾球温度、湿球温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：65℃ 乾球温度：25℃ 湿球温度：21℃ 温水出入口温度差：5℃
						水熱源運転、温水出口温度65℃、熱源水入口温度20℃以下、熱源水出口温度15℃以下、温水出入口温度差5℃	-	-	S-006304	3.6 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を次のとおり設定することを条件とする。温水出口温度：65℃、熱源水入口温度：20℃以下、熱源水出口温度：15℃以下、温水出入口温度差：5℃
						水熱源運転、温水出口温度75℃、熱源水入口温度17℃、熱源水出口温度7℃、温水出入口温度差10℃	-	-	S-006305	3.05 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：75℃ 熱源水入口温度：17℃ 熱源水出口温度：7℃ 温水出入口温度差：10℃
L-001330	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	高温水ヒートポンプ(水空気熱源・一過式)	空気、または水を熱源とでき、一過式の供給方式が可能なヒートポンプ方式で、水等の2次媒体を加熱する熱源・空調機。貯湯ユニットを含まないもの。	空気熱源運転	-	-	S-006306	4.2 *	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						水熱源運転	-	-	S-006307	3.9 *	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
L-001331	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	熱風ヒートポンプ(空気熱源・一過式)	空気を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる装置	-	-	-	S-006308	3.5	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数（COP）の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、外気温度（乾球温度/湿球温度）を次のとおり、設定することを条件とする。 空気入口温度：20℃、熱風供給温度：80℃、外気温度（乾球温度/湿球温度）25℃/21℃とする。
L-001332	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	熱風ヒートポンプ(水熱源・一過/循環式)	水を熱源とし、一過/循環式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、高温の熱風を発生させる熱源装置。	一過式	-	-	S-006309	3.7	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。空気入口温度：20℃、熱風供給温度：100℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃
						循環式	-	-	S-006310	3.5	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、空気入口温度、熱風供給温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。空気入口温度：50℃、熱風供給温度：60℃、熱源水入口温度：30℃、熱源水出口温度：25℃
						水熱源運転、温水出口温度70℃、熱源水入口温度50℃、熱源水出口温度38.6℃、温水出入口温度差50℃	-	-	S-006311	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、温水出口温度、熱源水入口温度、熱源水出口温度、温水出入口温度差を以下のとおり設定することを条件とする。 温水出口温度：70℃ 熱源水入口温度：50℃ 熱源水出口温度：38.6℃ 温水出入口温度差：50℃
L-001333	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	蒸気発生ヒートポンプ(水熱源・一過式)	水を熱源とし、一過式の供給方式を用いるヒートポンプ方式で、蒸気を発生させる熱源装置。	蒸気圧力0.1MPaG、熱源水入口温度65℃、熱源水出口温度60℃	-	-	S-006312	3.53 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。蒸気圧力：0.1MPaG、熱源水入口温度：65℃、熱源水出口温度：60℃
						蒸気圧力0.1MPaG、熱源水入口温度80℃、熱源水出口温度70℃	-	-	S-006313	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。 蒸気圧力：0.1MPaG 熱源水入口温度：80℃ 熱源水出口温度：70℃
						蒸気圧力0.6MPaG、熱源水入口温度70℃、熱源水出口温度65℃	-	-	S-006314	2.46 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、蒸気圧力、熱源水入口温度、熱源水出口温度を以下のとおり設定することを条件とする。 蒸気圧力：0.6MPaG 熱源水入口温度：70℃ 熱源水出口温度：65℃
L-001334	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	熱源（ヒートポンプ）	蒸気再圧縮装置	産業プロセス等で利用された排熱を回収し、循環式の供給方式を用いるヒートポンプ。低圧の蒸気を圧縮して再利用することで、ボイラ等の蒸気を利用する設備・機器等の省エネを実現可能。	吐出圧力0.1MPaG以上0.2MPaG以下、吐出蒸気量1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水温度80℃	-	-	S-006315	0.067 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量＝システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を次のとおり設定することを条件とする。 吐出圧力：0.1MPaG以上0.2MPaG以下、吐出蒸気量：1.0ton/h以上2.0ton/h以下、給水温度：80℃
						吐出圧力0.1MPaG以上0.3MPaG以下、吐出蒸気量3.0ton/h以上、給水温度80℃	-	-	S-006316	0.064 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量＝システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。 吐出圧力：0.1MPaG以上0.3MPaG以下 吐出蒸気量：3.0ton/h以上 給水温度：80℃
						吐出圧力0.4MPaG以上、吐出蒸気量1.0ton/h以上1.5ton/h以下、給水温度80℃	-	-	S-006317	0.085 *	kWh/kg	消費電力量	標準条件による評価	-	-	消費電力量＝システム消費電力[kW]/吐出蒸気量[kg/h]	-	-	消費電力量の算出にあたっては、吐出圧力、吐出蒸気量、給水温度を以下のとおり設定することを条件とする。 吐出圧力：0.4MPaG以上 吐出蒸気量：1.0ton/h以上1.5ton/h以下 給水温度：80℃
L-001336	産業・業務（業種共通）	空調	空調機（ペレットストーブ）	密閉式ペレットストーブ	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交わることはなく、清潔な環境を保つことができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。	-	-	-	S-006318	77 *	%	熱効率	標準条件による評価	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	η＝100－(qa＋qb＋qr) 、η：熱効率[%]、qa：試験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失（Qa）の比、熱による熱損失の割合（燃焼基準）[%]、qb：試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的熱損失（Qb）、の潜熱による熱損失の割合（燃焼基準）[%]、qr：試験燃料の熱容量当たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による熱損失（Qr）の残渣物中の可燃性構成、物質による損失の割合（燃焼基準）[%]※発熱量は高位発熱量[kcal]	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、試験実施にあたっては、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価を行うこととする。
L-001337	産業・業務（業種共通）	空調	空調フィルタ	空調用ハイブリッドフィルタ	空調機に設置する中性能フィルタを従来のプレ+中性能から低圧損洗浄再生中性能フィルタとすることにより、送風機の運転静圧を低下させ、インバータ装置による回転数制御方式を駆使することにより、電動機の軸動力を低減させる技術	-	定格風量	28m3/min	S-006319	0.25 *	kW	空調機ファン動力	シミュレーションによる評価	-	-	W=a×Q・ΔP+b×(r/r0)^d+c、W：ファン動力［kW］、Q·ΔP：風量×フィルタ圧損［m3Pa/s］、r：ファン回転数［rpm］、r0：定格回転数［rpm］、a：－0.000222、b：3.296、c：0.238、d：2.8	-	-	空調方式：変風量方式、設計風量：103m3/min（1.72m3/s）、初期圧損：100Pa、最終圧損：255Pa、平均圧損：185Pa、その他：フィルタ2枚使用、実抵抗は風量比の1.1 乗に比例するものとして補正、フィルタ圧損以外の管路抵抗は一定、管路抵抗は風量の2 乗に比例、空調負荷率は100%風量の発生率 1%、75%風量の発生率 42%、60%風量の発生率 57%
								56m3/min	S-006320	0.5 *									
L-001338	産業・業務（業種共通）	給湯	給湯器（ヒートポンプ）	ヒートポンプ給湯機(空気熱源)	空気を熱源とするヒートポンプ方式の給湯機。貯湯ユニットを含むもの。	-	加熱能力	10kW以下	S-006321	4.2	-	年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
								10kW超20kW以下	S-006322	4.2									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								20kW超30kW以下	S-006323	3.9									
								30kW超40kW以下	S-006324	3.8									
								40kW超50kW以下	S-006325	3.8									
								50kW超	S-006326	3.8									
						寒冷地仕様	加熱能力	10kW以下	S-006327	3.5	-	寒冷地年間標準貯湯加熱エネルギー消費効率	標準規格による評価	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠	JRA4060:2014	業務用ヒートポンプ給湯機	JRA4060:2014に準拠
								10kW超20kW以下	S-006328	3.5									
								20kW超30kW以下	S-006329	3.5									
								30kW超40kW以下	S-006330	3.4									
								40kW超50kW以下	S-006331	3.3									
								50kW超	S-006332	3.3									
L-001340	産業・業務（業種共通）	給湯	給湯器（ガス式）	潜熱回収型給湯器	バーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。潜熱回収型は、従来捨てられていた燃焼排熱を潜熱回収する。	-	-	-	S-006333	95	%	熱効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠
L-001341	産業・業務（業種共通）	給湯	ボイラ	温水機	燃焼室、伝熱面、熱交換器からなる。燃焼によって温められた熱媒水と給水管の水とを熱交換させ、その温水を取り出して利用する。熱媒水を真空状態に密閉した状態で沸騰させる真空式と、熱媒水を大気に開放した状態で温める無圧式が存在する。	-	出力	1000kW未満	S-006334	96	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000（あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015）	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠（あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015に準拠）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000（あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015）	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、真空式温水発生機または無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠（あるいは、HA-008:2015またはHA-010:2015に準拠）
								1000kW以上2000kW未満	S-006335	91									
								2000kW以上	S-006336	91									
						潜熱回収型、LPG焚き	出力	1000kW未満	S-006337	103	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017）	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠）	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017）	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠）
								1000kW以上2000kW未満	S-006338	-									
								2000kW以上	S-006339	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件			
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						潜熱回収型、都市ガス13A焚き	出力	1000kW未満	S-006340	105.2	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JIS8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017）	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠）	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017）	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機（あるいは、ガス焚潜熱回収型真空式温水発生機またはガス焚潜熱回収型無圧式温水発生機）	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJISB8418:2000に準拠（あるいは、HA-035:2017またはHA-036:2017に準拠）
								1000kW以上2000kW未満	S-006341	-										
								2000kW以上	S-006342	-										
						燃料：木質バイオマス	出力	100kW以上200kW未満	S-006343	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2：2015またはHA-034-1：2015	日本暖房機器工業会規格HA	ＪＩＳB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJSB8418:2000に準拠
								200kW以上300kW未満	S-006344	90										
								300kW以上400kW未満	S-006345	90										
								400kW以上500kW未満	S-006346	90										
								500kW以上600kW未満	S-006347	90										
						燃料：薪	出力	100kW未満	S-006348	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	HA-034-2：2015またはHA-034-1：2015	日本暖房機器工業会規格HA	JISB8222-1993、HA-034-2：2015、HA-034-1：2015に準拠	JISB8222-1993、JISB8417:2000またはJISB8418:2000	陸用ボイラー熱勘定方式、真空式温水発生機、または無圧式温水発生機	JISB8222-1993、JISB8417:2000、またはJSB8418:2000に準拠
								100kW以上200kW未満	S-006349	90										
								200kW以上400kW未満	S-006350	85										
								400kW以上	S-006351	85										
L-001342	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(貫流ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。小型･軽量で、空調用、業務用～産業用の幅広い業種で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-006352	98	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」	陸用ボイラー熱勘定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-006353	99										

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								3000kg/h以上	S-006354	99									
						潜熱回収型	蒸発量	3000kg/h未満	S-006355	102	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」	陸用ボイラー熱勘定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠
								3000kg/h以上	S-006356	102									
						クローズド回収型（給水温度100℃以上）、エアヒータ（空気予熱器）の搭載	（相当）蒸発量	3000kg/h未満	S-006357	98 *	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	貫流ボイラ性能表示ガイドライン	貫流ボイラ性能表示ガイドライン	給水温度15℃、給気温度35℃、運転圧力は「貫流ボイラ性能表示ガイドライン」　表1.効率表示圧力基準に準拠
								3000kg/h以上	S-006358	98 *									
L-001343	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(炉筒煙管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。中程度の出力で、主に産業用･地域冷暖房用途で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-006359	92	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-006360	92									
								3000kg/h以上7200kg/h未満	S-006361	96									
								7200kg/h以上19200kg/h未満	S-006362	96									
								19200kg/h以上	S-006363	92									
						潜熱回収型、都市ガス13A焚き	蒸発量	1500kg/h未満	S-006364	-	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-006365	102									
								3000kg/h以上	S-006366	-									
L-001344	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	蒸気ボイラ(水管ボイラ)	燃料の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。高圧･大容量で、主に化学・製紙業といった産業用や、地域暖房用で使用される。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-006367	92	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h未満	S-006368	-									
								3000kg/h以上7200kg/h未満	S-006369	96									
								7200kg/h以上19200kg/h未満	S-006370	96									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								19200kg/h以上	S-006371	94									
L-001345	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	水素ボイラ(貫流ボイラ)	水素の燃焼を熱源として水を加熱して蒸気を発生させ、その蒸気を他に供給する装置。水素は燃焼時に水のみしか生成せず、CO2を排出しない事から、炭化水素系燃料からの代替により、大幅にCO2を削減できる。現在は安価に水素が調達可能な副生水素の工場が対象とはなっているが、将来的には水素価格の低下により広く様々な業界で利用できると考えられる。	-	蒸発量	1500kg/h未満	S-006372	90	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準	陸用ボイラー熱勘定方式および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準	JISB8222-1993および公益財団法人日本小型貫流ボイラー協会が規定する「ボイラー性能表示基準値」に準拠
								1500kg/h以上3000kg/h	S-006373	95									
								3000kg/h以上	S-006374	-									
L-001346	産業・業務（業種共通）	産業用プロセス	ボイラ	熱媒ボイラ	沸点の高い油を伝熱媒体に使用することによって、常圧で高温が得られる装置。熱媒の種類によって油温度を200℃以上の任意温度にすることが容易にできるため、精度の高い温度制御が必要な化学工業等の加熱、反応用プロセスに多く用いられる。	-	出力	1000kW未満	S-006375	92	%	ボイラ効率	標準規格による評価	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠	JISB8222-1993	陸用ボイラー熱勘定方式	JISB8222-1993に準拠
								1000kW以上2000kW未満	S-006376	92									
								2000kW以上	S-006377	92									
L-001347	産業・業務（業種共通）	空調/給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	ガスエンジンコージェネレーション	ガスを燃料としエンジン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収することにより、燃料を効率的に利用する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	5kW以下	S-006378	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								5kW超10kW以下	S-006379	86.5									
								10kW超25kW以下	S-006380	85.5									
								25kW超35kW以下	S-006381	88									
								35kW超250kW以下	S-006382	90.2									
								250kW超500kW以下	S-006383	83.8									
								500kW超750kW以下	S-006384	87.8									
								750kW超1000kW以下	S-006385	87.8									
								3000kW超	S-006386	87									
								5kW以下	S-006387	29	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								5kW超10kW以下	S-006388	31.5									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								10kW超25kW以下	S-006389	33.5									
								25kW超35kW以下	S-006390	33.5									
								35kW超250kW以下	S-006391	35.5									
								250kW超500kW以下	S-006392	41.6									
								500kW超750kW以下	S-006393	41.8									
								750kW超1000kW以下	S-006394	42.6									
								3000kW超	S-006395	49.8									
						50Hz、高速エンジン（1000rpm以上）	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-006396	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006397	77.5									
								1000kW超2000kW以下	S-006398	43.1	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006399	43.6									
						50Hz、中速エンジン（1000rpm未満）	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-006400	74.3	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006401	77.9									
								1000kW超2000kW以下	S-006402	45.5	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006403	47.8									
						60Hz	発電出力	5kW以下	S-006404	85.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								5kW超10kW以下	S-006405	86.5									
								10kW超25kW以下	S-006406	85.5									
								25kW超35kW以下	S-006407	88									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								35kW超250kW以下	S-006408	90.7									
								250kW超500kW以下	S-006409	82.1									
								500kW超750kW以下	S-006410	87.8									
								750kW超1000kW以下	S-006411	87.8									
								3000kW超	S-006412	87									
								5kW以下	S-006413	29	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								5kW超10kW以下	S-006414	31.5									
								10kW超25kW以下	S-006415	33.5									
								25kW超35kW以下	S-006416	33.5									
								35kW超250kW以下	S-006417	37									
								250kW超500kW以下	S-006418	42									
								500kW超750kW以下	S-006419	41.3									
								750kW超1000kW以下	S-006420	42.5									
								3000kW超	S-006421	49.8									
						60Hz、高速エンジン（1000rpm以上）	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-006422	86.5	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006423	-									
								1000kW超2000kW以下	S-006424	43.4	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006425	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						60Hz、中速エンジン（1000rpm未満）	発電出力	1000kW超2000kW以下	S-006426	77	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006427	77.9									
								1000kW超2000kW以下	S-006428	45.5	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								2000kW超3000kW以下	S-006429	47.8									
L-001348	産業・業務（業種共通）	空調/給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	ガスタービンコージェネレーション	ガスを燃料とし、タービン方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz	発電出力	1000kW以下	S-006430	83	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	S-006431	84									
								2000kW超3000kW以下	S-006432	81.8									
								3000kW超5000kW以下	S-006433	-									
								5000kW超7000kW以下	S-006434	-									
								7000kW超10000kW以下	S-006435	85.2									
								10000kW超40000kW以下	S-006436	85.9									
								40000kW超	S-006437	84									
								1000kW以下	S-006438	18.6	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	S-006439	27.7									
								2000kW超3000kW以下	S-006440	28.4									
								3000kW超5000kW以下	S-006441	31.9									
								5000kW超7000kW以下	S-006442	39.3									
								7000kW超10000kW以下	S-006443	34.3									
								10000kW超40000kW以下	S-006444	39.1									
								40000kW超	S-006445	40.9									
						60Hz	発電出力	1000kW以下	S-006446	83	%	総合効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	S-006447	84									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								2000kW超3000kW以下	S-006448	81.8									
								3000kW超5000kW以下	S-006449	-									
								5000kW超7000kW以下	S-006450	-									
								7000kW超10000kW以下	S-006451	85.2									
								10000kW超40000kW以下	S-006452	86.8									
								40000kW超	S-006453	84									
								1000kW以下	S-006454	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISB8121:2009	コージェネレーションシステム用語	JISB8121:2009に準拠	JISB8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JISB8122:2009に準拠
								1000kW超2000kW以下	S-006455	27.7									
								2000kW超3000kW以下	S-006456	28.4									
								3000kW超5000kW以下	S-006457	31.9									
								5000kW超7000kW以下	S-006458	39.3									
								7000kW超10000kW以下	S-006459	34.3									
								10000kW超40000kW以下	S-006460	39.1									
								40000kW超	S-006461	40.9									
L-001349	産業・業務（業種共通）	空調/給湯/産業用プロセス	コージェネレーション	燃料電池コージェネレーション	ガスを燃料とし、燃料電池方式により発電し、その際に生じる廃熱を同時回収する熱電供給システム。廃熱で発生する蒸気や温水は、製造業のプロセス利用や、施設の空調・給湯などに幅広く使用される。	50Hz　燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	S-006462	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006463	93									
								150kW超	S-006464	-									
								75kW以下	S-006465	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006466	48									
								150kW超	S-006467	-									
						50Hz　燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	S-006468	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								75kW超150kW以下	S-006469	91									
								150kW超	S-006470	-									
								75kW以下	S-006471	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006472	42									
								150kW超	S-006473	-									
						50Hz　燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	S-006474	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006475	84									
								150kW超	S-006476	-									
								75kW以下	S-006477	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006478	40									
								150kW超	S-006479	-									
						60Hz　燃料ガスの種類：純水素	発電出力	75kW以下	S-006480	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006481	93									
								150kW超	S-006482	-									
								75kW以下	S-006483	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006484	48									
								150kW超	S-006485	-									
						60Hz　燃料ガスの種類：都市ガス	発電出力	75kW以下	S-006486	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006487	91									
								150kW超	S-006488	-									
								75kW以下	S-006489	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								75kW超150kW以下	S-006490	42									
								150kW超	S-006491	-									
						60Hz　燃料ガスの種類：バイオガス	発電出力	75kW以下	S-006492	-	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006493	84									
								150kW超	S-006494	-									
								75kW以下	S-006495	-	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801：2009に準拠	JISC8801:2009	りん酸形燃料電池発電システム通則	JISC8801:2009に準拠
								75kW超150kW以下	S-006496	40									
								150kW超	S-006497	-									
L-001352	産業・業務（業種共通）	冷凍冷蔵	冷凍冷蔵機器	業務用冷凍冷蔵庫	レストランの厨房やスーパーマーケットのバックヤード等に使用される冷凍冷蔵庫を指す。家庭用と比較し、急速な冷却機能と高い断熱性能が求められる。	冷蔵庫：横型	容量	250L以下	S-006498	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	S-006499	-									
								350L超450L以下	S-006500	-									
								450L超	S-006501	-									
						冷蔵庫：縦型	容積	700L以下	S-006502	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								700L超1200L以下	S-006503	-									
								1200L超	S-006504	-									
						冷凍庫：横型	容量	250L以下	S-006505	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	S-006506	-									
								350L超	S-006507	-									
						冷凍庫：縦型	容量	700L以下	S-006508	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								700L超900L以下	S-006509	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								900L超1200L以下	S-006510	-									
								1200L超1500L以下	S-006511	-									
								1500L超	S-006512	-									
						冷凍冷蔵庫：横型(冷凍室1室)	容量	250L以下	S-006513	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								250L超350L以下	S-006514	-									
								350L超	S-006515	-									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室1室)	容積	1200L以下	S-006516	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								1200L超	S-006517	-									
						冷凍冷蔵庫：縦型(冷凍室2室)	容量	900L以下	S-006518	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠	JISB8630:2009	業務用の電気冷蔵庫及び電気冷凍庫－特性及び試験方法	JISB8630:2009に準拠
								900L超1200L以下	S-006519	-									
								1200L超	S-006520	-									
L-001353	産業・業務（業種共通）	動力他	冷凍冷蔵機器	空気冷媒方式冷凍機	空気の断熱膨張における温度低下により、マイナス50～100℃の空気を得る冷凍機。	庫腹量（有効容積）1300m3規模	-	-	S-006521	0.42 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を次のとおり設定することを条件とする。なお、附属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを用いる。庫内温度：-60℃
						庫腹量（有効容積）2600m3規模	-	-	S-006522	0.4 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、庫内温度を次のとおり設定することを条件とする。なお、附属する機器動力も加味した定格消費エネルギーを用いる。庫内温度：-60℃
L-001354	産業・業務（業種共通）	動力他	冷凍冷蔵機器	冷凍冷蔵倉庫用自然冷媒冷凍機（アンモニア/CO2二次冷媒システム）	アンモニアを一次冷媒、二酸化炭素を二次冷媒（マイナス5～マイナス40℃程度）とし、それを庫内に循環させる冷凍機。	庫内温度-20℃超10℃以下、CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度：32℃	冷凍能力	100kW以下	S-006523	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、凝縮温度、CO2温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。 CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度：32℃
								100kW超 200kW以下	S-006524	3.15 *									
								200kW超	S-006525	3.41 *									
						庫内温度：-20℃超10℃以下、CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度：30℃	冷凍能力	50kW以下	S-006526	2.7 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、冷却水入口温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。 CO2温度：-17℃超-5℃以下、冷却水入り口温度：30℃
								50kW超	S-006527	-									
						庫内温度：-20℃超10℃以下、CO2温度：-17℃超-5℃以下、吸込空気温度：32℃	冷凍能力	50kW以下	S-006528	1.8 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費エネルギー [W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、吸込空気温度をそれぞれ以下のとおり設定することを条件とする。 CO2温度：-17℃超-5℃以下、吸込空気温度：32℃

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								50kW超	S-006529	-									
						庫内温度-40℃超-20℃以下	冷凍能力	50kW以下	S-006530	2.04 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費エネルギー[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、冷却水入り口温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。CO2温度：-37℃超-27℃以下、冷却水入り口温度：32℃
								50kW超 150kW以下	S-006531	2.32 *									
								150kW超 250kW以下	S-006532	2.32 *									
								250kW超	S-006533	2.31 *									
L-001355	産業・業務（業種共通）	動力他	冷凍冷蔵機器	自然冷媒冷凍冷蔵コンデンシングユニット	フロン冷媒により駆動する、従来のコンデンシングユニットに対して、CO2等の自然冷媒により駆動するコンデンシングユニット	中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃）、吸込ガス過熱度10K、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	S-006534	2.02	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								16.0kW超24.0kW以下	S-006535	-									
								24.0kW超36.0kW以下	S-006536	1.84									
								36.0kW超	S-006537	-									
						低温用（吸込み圧力飽和温度-40℃）、吸込ガス過熱度10K　周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-006538	1.01	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								8.0kW超12.0kW以下	S-006539	-									
								12.0kW超18.0kW以下	S-006540	0.95									
								18.0kW超	S-006541	-									
						中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃）、吸込ガス温度18℃、空冷式の凝縮器、凝縮器に流入空気温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-006542	2.1	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JRA 4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								8.0kW超16.0kW以下	S-006543	1.77									
								16.0kW超24.0kW以下	S-006544	1.68									
								24.0kW超36.0kW以下	S-006545	1.77									
								36.0kW超	S-006546	-									
						低温用（吸込み圧力飽和温度-40℃）、吸込ガス温度18℃、空冷式の凝縮器、凝縮器に流入空気温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	4.0kW以下	S-006547	0.94	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JRA 4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								4.0kW超8.0kW以下	S-006548	0.91									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								8.0kW超12.0kW以下	S-006549	0.85									
								12.0kW超18.0kW以下	S-006550	0.91									
								18.0kW超	S-006551	-									
						中温用(吸込み圧力飽和温度-10℃）、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	16.0kW以下	S-006552	-	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								16.0kW超24.0kW以下	S-006553	-									
								24.0kW超36.0kW以下	S-006554	2				JRA4019：2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019：2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								36.0kW超	S-006555	-									
						低温用（吸込み圧力飽和温度-40℃）、吸込ガス温度18℃、水冷式の凝縮器、凝縮器の冷却水温度32℃、周囲温度32℃	冷凍能力	8.0kW以下	S-006556	-	-	成績係数（COP）	標準規格による評価	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力 [W]	JRA4019:2014	コンデンシングユニット	JRA4019：2014に準拠
								8.0kW超12.0kW以下	S-006557	-									
								12.0kW超18.0kW以下	S-006558	0.94									
								18.0kW超	S-006559	-									
L-001356	産業・業務（業種共通）	照明	照明器具	LED照明器具	発光ダイオード(LED)を光源に使用した照明器具。ただし、電気用品安全法の下でのPSE マークが付与されている製品に限る。	ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-	-	S-006560	145.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	-	S-006561	144	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-	-	S-006562	142.6	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	-	S-006563	154.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	-	S-006564	162.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	-	S-006565	160	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						高天井用形状、温白色、電球色、配光角30°以下	-	-	S-006566	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						高天井用形状、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	-	S-006567	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						高天井用形状、温白色、電球色、配光角60°超	-	-	S-006568	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						高天井用形状、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	-	S-006569	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						高天井用形状、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	-	S-006570	183.6	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						高天井用形状、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	-	S-006571	210	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ベースライト型(スクエア)	-	32W蛍光灯相当スクエアサイズ	S-006572	172.8	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								45W蛍光灯相当スクエアサイズ	S-006573	171.1									
						ベースライト型(ストレート)	-	-	S-006574	202.3	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
L-001357	産業・業務（業種共通）	動力他	プリンタ/複写機	プリンタ	プリンタの印字方式の主流は、インクジェット方式と電子写真方式であるが、オフィスで主に利用されているものは印刷速度の速い、電子写真方式である。電子写真方式の印刷工程は、帯電、露光、現像、転写、定着、清掃の6 工程であり、複写機と同様である。露光部分にLED（発光ダイオード）を用いたLEDプリンタもある。	カラー印刷機能無	-	-	S-006575	-	kWh	概念的1週間（稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間＋スリープ/オフ状態の2日間）の消費電力量（TEC消費電力量）	標準規格による評価	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件
						カラー印刷機能有	-	-	S-006576	-	kWh	概念的1週間（稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間＋スリープ/オフ状態の2日間）の消費電力量（TEC消費電力量）	標準規格による評価	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件
L-001358	産業・業務（業種共通）	動力他	プリンタ/複写機	複合機	複写機能、プリンタ機能、スキャナ機能、ファクシミリ機能のうち2 つ以上の機能を有する機器である。	カラー複写機能無	-	-	S-006577	-	kWh	概念的1週間（稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間＋スリープ/オフ状態の2日間）の消費電力量（TEC消費電力量）	標準規格による評価	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件
						カラー複写機能有	-	-	S-006578	-	kWh	概念的1週間（稼働とスリープ/オフが繰り返される5日間＋スリープ/オフ状態の2日間）の消費電力量（TEC消費電力量）	標準規格による評価	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める計算式	-	国際エネルギースタープログラム	国際エネルギースタープログラムで定める試験条件
L-001359	産業・業務（業種共通）	動力他	モータ	誘導モータ	回転子、固定子ともに金属を使用し、固定子に交流電流を流して回転磁界を発生させるとともに、回転子にも誘導電流が流れて磁界が生ずることにより、回転力を得るモータ。産業機械・工作機械等に幅広く用いられる。鉄芯、巻線、冷却ファン等の改善により損失を低減し高効率化が図られている。	50Hz、200V、極数2	容量	0.75kW以下	S-006579	85	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-006580	85.5									
								1.1kW超1.5kW以下	S-006581	89.4									
								1.5kW超2.2kW以下	S-006582	89.5									
								2.2kW超3.0kW以下	S-006583	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-006584	89.9									
								3.7kW超4.0kW以下	S-006585	-									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								4.0kW超5.5kW以下	S-006586	91.2									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006587	91.5									
								7.5kW超11.0kW以下	S-006588	91.9									
								11.0kW超15.0kW以下	S-006589	92.2									
								15.0kW超18.5kW以下	S-006590	93.1									
								18.5kW超22.0kW以下	S-006591	93.8									
								22.0kW超30.0kW以下	S-006592	94									
								30.0kW超37.0kW以下	S-006593	94.3									
								37.0kW超	S-006594	96.2									
						50Hz、200V、極数4	容量	0.75kW以下	S-006595	84.8	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-006596	-									
								1.1kW超1.5kW以下	S-006597	86.9									
								1.5kW超2.2kW以下	S-006598	88.6									
								2.2kW超3.0kW以下	S-006599	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-006600	89.4									
								3.7kW超4.0kW以下	S-006601	-									
								4.0kW超5.5kW以下	S-006602	91.9									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006603	91.7									
								7.5kW超11.0kW以下	S-006604	92.5									
								11.0kW超15.0kW以下	S-006605	93.1									
								15.0kW超18.5kW以下	S-006606	94.1									
								18.5kW超22.0kW以下	S-006607	93.9									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								22.0kW超30.0kW以下	S-006608	94.5									
								30.0kW超37.0kW以下	S-006609	95.1									
								37.0kW超	S-006610	96									
						50Hz、200V、極数6	容量	0.75kW以下	S-006611	83.8	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-006612	-									
								1.1kW超1.5kW以下	S-006613	87.2									
								1.5kW超2.2kW以下	S-006614	89.3									
								2.2kW超3.0kW以下	S-006615	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-006616	89.3									
								3.7kW超4.0kW以下	S-006617	-									
								4.0kW超5.5kW以下	S-006618	91.1									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006619	91.1									
								7.5kW超11.0kW以下	S-006620	91.7									
								11.0kW超15.0kW以下	S-006621	92.5									
								15.0kW超18.5kW以下	S-006622	92.7									
								18.5kW超22.0kW以下	S-006623	93.2									
								22.0kW超30.0kW以下	S-006624	94.2									
								30.0kW超37.0kW以下	S-006625	93.9									
								37.0kW超	S-006626	94.7									
						60Hz、220V、極数2	容量	0.75kW以下	S-006627	86.2	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-006628	86.3									
								1.1kW超1.5kW以下	S-006629	90.2									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								1.5kW超2.2kW以下	S-006630	90.8									
								2.2kW超3.0kW以下	S-006631	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-006632	90.9									
								3.7kW超4.0kW以下	S-006633	-									
								4.0kW超5.5kW以下	S-006634	91.5									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006635	92.4									
								7.5kW超11.0kW以下	S-006636	92.4									
								11.0kW超15.0kW以下	S-006637	93.1									
								15.0kW超18.5kW以下	S-006638	93.7									
								18.5kW超22.0kW以下	S-006639	94									
								22.0kW超30.0kW以下	S-006640	94.1									
								30.0kW超37.0kW以下	S-006641	94									
								37.0kW超	S-006642	94.8									
						60Hz、220V、極数4	容量	0.75kW以下	S-006643	87.3	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-006644	-									
								1.1kW超1.5kW以下	S-006645	89.1									
								1.5kW超2.2kW以下	S-006646	90.2									
								2.2kW超3.0kW以下	S-006647	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-006648	90.7									
								3.7kW超4.0kW以下	S-006649	-									
								4.0kW超5.5kW以下	S-006650	92.8									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006651	92.9									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								7.5kW超11.0kW以下	S-006652	93.3									
								11.0kW超15.0kW以下	S-006653	93.6									
								15.0kW超18.5kW以下	S-006654	94.7									
								18.5kW超22.0kW以下	S-006655	94.7									
								22.0kW超30.0kW以下	S-006656	94.9									
								30.0kW超37.0kW以下	S-006657	95.7									
								37.0kW超	S-006658	96.3									
						60Hz、220V、極数6	容量	0.75kW以下	S-006659	85.3	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JIS C 4034-2-1:2011またはJIS C 4213:2014に準拠。ただし、負荷を100%とする。
								0.75kW超1.1kW以下	S-006660	-									
								1.1kW超1.5kW以下	S-006661	-									
								1.5kW超2.2kW以下	S-006662	90.4									
								2.2kW超3.0kW以下	S-006663	-									
								3.0kW超3.7kW以下	S-006664	90.6									
								3.7kW超4.0kW以下	S-006665	-									
								4.0kW超5.5kW以下	S-006666	92.2									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006667	92.4									
								7.5kW超11.0kW以下	S-006668	93.2									
								11.0kW超15.0kW以下	S-006669	93.4									
								15.0kW超18.5kW以下	S-006670	93.7									
								18.5kW超22.0kW以下	S-006671	94.3									
								22.0kW超30.0kW以下	S-006672	94.8									
								30.0kW超37.0kW以下	S-006673	94.9									

L2-Tech リストNo	区分 部門1	区分 部門2	区分 技術分類	設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス 条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標 測定単位 単位	指標 測定単位 名称	指標 評価方法のタイプ	指標 計算方法 準拠する規格	指標 計算方法 規格の名称	指標 計算方法 計算式	指標 試験条件 準拠する規格	指標 試験条件 規格の名称	指標 試験条件 説明
								37.0kW超	S-006674	95.3									
L-001360	産業・業務（業種共通）	動力他	モータ	永久磁石同期モータ	回転子に永久磁石を使用した同期モータのうち、サーボモータを含まないもの。鉄道車両・自動車・産業機械等、幅広く用いられる。	-	容量	0.75kW以下	S-006675	92.3	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JISC4034-2-1:2011に準拠	JISC4034-2-1:2011	回転電気機械－第２－１部：単一速度三相かご形誘導電動機の効	JISC4034-2-1:2011に準拠
								0.75kW超1.5kW以下	S-006676	90.4									
								1.5kW超2.2kW以下	S-006677	92.5									
								2.2kW超3.7kW以下	S-006678	94.8									
								3.7kW超5.5kW以下	S-006679	94.3									
								5.5kW超7.5kW以下	S-006680	94.8									
								7.5kW超11kW以下	S-006681	94.3									
								11kW超15kW以下	S-006682	95									
								15kW超18.5kW以下	S-006683	94.9									
								18.5kW超22kW以下	S-006684	96.2									
								22kW超30kW以下	S-006685	96.3									
								30kW超37kW以下	S-006686	95.6									
								37kW超45kW以下	S-006687	95.9									
								45kW超55kW以下	S-006688	96.1									
								55kW超75kW以下	S-006689	97.4									
								75kW超90kW以下	S-006690	96.2									
								90kW超110kW以下	S-006691	96.6									
								110kW超132kW以下	S-006692	97									
								132kW超160kW以下	S-006693	97.2									
								160kW超	S-006694	-									
L-001361	産業・業務（業種共通）	動力他	変圧器	油入変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。クラフト紙・プレスボード等の絶縁物と絶縁油にて構成されている。	油入変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	S-006695	82	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用６kV油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用６kV油入変圧器	JISC4304:2013に準拠

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								20kVA超30kVA以下	S-006696	123									
								30kVA超50kVA以下	S-006697	187									
								50kVA超75kVA以下	S-006698	211									
								75kVA超100kVA以下	S-006699	261									
								100kVA超150kVA以下	S-006700	322									
								150kVA超200kVA以下	S-006701	412									
								200kVA超300kVA以下	S-006702	553									
								300kVA超500kVA以下	S-006703	833									
								500kVA超750kVA以下	S-006704	1453									
								750kVA超1000kVA以下	S-006705	1883									
								1000kVA超1500kVA以下	S-006706	2688									
								1500kVA超2000kVA以下	S-006707	3458									
						油入変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	S-006708	72	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	S-006709	115									
								30kVA超50kVA以下	S-006710	182									
								50kVA超75kVA以下	S-006711	195									
								75kVA超100kVA以下	S-006712	246									
								100kVA超150kVA以下	S-006713	303									
								150kVA超200kVA以下	S-006714	392									
								200kVA超300kVA以下	S-006715	507									
								300kVA超500kVA以下	S-006716	756									
								500kVA超750kVA以下	S-006717	1385									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								750kVA超1000kVA以下	S-006718	1783									
								1000kVA超1500kVA以下	S-006719	2513									
								1500kVA超2000kVA以下	S-006720	3325									
						油入変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	S-006721	42	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	S-006722	74									
								20kVA超30kVA以下	S-006723	100									
								30kVA超50kVA以下	S-006724	144									
								50kVA超75kVA以下	S-006725	150									
								75kVA超100kVA以下	S-006726	198									
								100kVA超150kVA以下	S-006727	264									
								150kVA超200kVA以下	S-006728	346									
								200kVA超300kVA以下	S-006729	456									
								300kVA超500kVA以下	S-006730	745									
						油入変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	S-006731	37	W	全損失	標準規格による評価	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠	JISC4304:2013	配電用 6 kV 油入変圧器	JISC4304:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	S-006732	68									
								20kVA超30kVA以下	S-006733	95									
								30kVA超50kVA以下	S-006734	139									
								50kVA超75kVA以下	S-006735	151									
								75kVA超100kVA以下	S-006736	198									
								100kVA超150kVA以下	S-006737	262									
								150kVA超200kVA以下	S-006738	328									
								200kVA超300kVA以下	S-006739	431									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								300kVA超500kVA以下	S-006740	755									
L-001362	産業・業務（業種共通）	動力他	変圧器	モールド変圧器	電磁誘導を利用し、用途に応じて交流電圧を昇降させる装置。低損失磁性体材料を使用する低損失構造とする等、損失を低減する工夫がなされている。耐熱絶縁電線でコイルを構成し、エポキシ樹脂でモールドされている。	モールド変圧器、三相、50Hz	定格容量	20kVA以下	S-006741	163	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	S-006742	197									
								30kVA超50kVA以下	S-006743	309									
								50kVA超75kVA以下	S-006744	244									
								75kVA超100kVA以下	S-006745	309									
								100kVA超150kVA以下	S-006746	411									
								150kVA超200kVA以下	S-006747	460									
								200kVA超300kVA以下	S-006748	581									
								300kVA超500kVA以下	S-006749	899									
								500kVA超750kVA以下	S-006750	1675									
								750kVA超1000kVA以下	S-006751	2094									
								1000kVA超1500kVA以下	S-006752	3300									
								1500kVA超2000kVA以下	S-006753	4088									
						モールド変圧器、三相、60Hz	定格容量	20kVA以下	S-006754	157	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠
								20kVA超30kVA以下	S-006755	191									
								30kVA超50kVA以下	S-006756	301									
								50kVA超75kVA以下	S-006757	244									
								75kVA超100kVA以下	S-006758	293									
								100kVA超150kVA以下	S-006759	401									
								150kVA超200kVA以下	S-006760	460									
								200kVA超300kVA以下	S-006761	592									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								300kVA超500kVA以下	S-006762	852									
								500kVA超750kVA以下	S-006763	1715									
								750kVA超1000kVA以下	S-006764	2028									
								1000kVA超1500kVA以下	S-006765	3200									
								1500kVA超2000kVA以下	S-006766	4125									
						モールド変圧器、単相、50Hz	定格容量	10kVA以下	S-006767	78	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	S-006768	115									
								20kVA超30kVA以下	S-006769	160									
								30kVA超50kVA以下	S-006770	155									
								50kVA超75kVA以下	S-006771	181									
								75kVA超100kVA以下	S-006772	223									
								100kVA超150kVA以下	S-006773	289									
								150kVA超200kVA以下	S-006774	369									
								200kVA超300kVA以下	S-006775	496									
								300kVA超500kVA以下	S-006776	774									
						モールド変圧器、単相、60Hz	定格容量	10kVA以下	S-006777	73	W	全損失	標準規格による評価	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠	JISC4306:2013	配電用 6 kV モールド変圧器	JISC4306:2013に準拠
								10kVA超20kVA以下	S-006778	110									
								20kVA超30kVA以下	S-006779	150									
								30kVA超50kVA以下	S-006780	149									

L2-Tech リスト№	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報№	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力（名称）	クラス 能力（単位）			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								50kVA超75kVA以下	S-006781	183									
								75kVA超100kVA以下	S-006782	228									
								100kVA超150kVA以下	S-006783	285									
								150kVA超200kVA以下	S-006784	368									
								200kVA超300kVA以下	S-006785	491									
								300kVA超500kVA以下	S-006786	785									
L-001371	産業・業務（業種共通）	動力他	モータ利用機器（圧縮機）	蒸気駆動圧縮機	従来の電動コンプレッサと異なり、動力源として電動モータではなく、スチームモータを搭載する。スチームモータは、蒸気を減圧する際に発生するエネルギーを駆動源とする圧縮機。従来の電動コンプレッサ（圧縮機）と比較し、減圧エネルギーを有効利用できるためCO2削減に優れる。ボイラ設備（ボイラ、軟水装置、給水タンク）の蒸気配管減圧弁に並列して設置し、本商品を減圧弁の代替として利用する。	-	容量、消費蒸気量	37kW、79kg/h	S-006787	6.95 *	%	消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	E=B/（A-C)、E：消費蒸気原単位［-］、A：消費蒸気量［kW］、B：吐出空気量［m3/min］、C：回収熱量［kW］	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。
								55kW、106kg/h	S-006788	1.93 *									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件			
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								75kW、178kg/h	S-006789	2.18 *									
						高圧蒸気仕様	容量、消費蒸気量	75kW、247kg/h	S-006790	0.6 *	%	消費蒸気原単位	標準条件による評価	-	-	E=B/（A-C)、E：消費蒸気原単位［-］、A：消費蒸気量［kW］、B：吐出空気量［m3/min］、C：回収熱量［kW］	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上、また、消費蒸気量はメーカー指示値（性能表等）を参照する。
L-001372	産業・業務（業種共通）	動力他	モータ利用機器（圧縮機）	熱回収式ねじ容積形圧縮機	従来は、廃棄されていた圧縮熱を温水として供給可能なねじ容積形圧縮機。コンプレッサの廃熱を温水として回収するために軟水装置から軟水を通過させ、70℃の温水をボイラ給水へ戻すことでボイラの燃料消費量が低減可能。また、直接温水利用することも可能。	給油式	容量、熱回収量	37kW、25kW	S-006791	0.41 *	%	エネルギー原単位	標準条件による評価	JISB8341-2008	容積形圧縮機	E=B/（A-C)、E：エネルギー原単位［-］、A：軸動力［kW］、B：吐出空気量［m3/min］、C：回収熱量［kW］	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上
								75kW、60kW	S-006792	0.88 *									
						オイルフリー式	容量、熱回収量	37kW、25kW	S-006793	0.41 *	%	エネルギー原単位	標準条件による評価	JISB8341-2008	容積形圧縮機	E=B/（A-C)、E：エネルギー原単位［-］、A：軸動力［kW］、B：吐出空気量［m3/min］、C：回収熱量［kW］	JISB8341-2008	容積形圧縮機	JISB8341-2008に準拠。ただし、回収熱量については温水入口温度と温水出口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：15℃、温水出口温度：50℃以上
								75kW、60kW	S-006794	0.87 *									
L-001385	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-006795	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-001386	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-006796	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-001387	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	真空Low-E複層ガラス	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	新築用	-	-	S-006797	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-001388	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大がかりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-006798	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3（アタッチメント付き）のガラス構成における数値を示す。
L-001389	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	真空ガラス	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-006799	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+V0.2+FL3のガラス構成における数値を示す。

L2-Tech リスト№	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報№	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001390	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることでLow-E複層ガラスとして放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-006800	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。
L-001391	産業・業務（業種共通）	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-006801	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JIS R3107:2019及びJIS R3209:2018に準拠。ただし、L2-Tech水準は、LE3+Kr2.5+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-001392	産業・業務（業種共通）	断熱	断熱材	断熱材(押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	S-006802	0.022	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JIS A9511:2006RまたはJIS A9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JIS A9511:2006RまたはJIS A9521:2014に準拠	JIS A9511:2006RまたはJIS A9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JIS A9511:2006RまたはJIS A9521:2014に準拠
L-001393	産業・業務（業種共通）	断熱	断熱材	断熱材(グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	S-006803	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JIS A9521:2014	建築用断熱材	JIS A9521:2014に準拠	JIS A9521:2014	建築用断熱材	JIS A9521:2014に準拠
						壁用	-	-	S-006804	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JIS A9521:2014	建築用断熱材	JIS A9521:2014に準拠	JIS A9521:2014	建築用断熱材	JIS A9521:2014に準拠
L-001394	産業・業務（業種共通）	断熱	断熱材	真空断熱材	家庭用冷蔵庫の断熱材として使用されている真空断熱材を使用した断熱材。住宅だけではなく非住宅のリフォーム（内貼断熱工法）にも向く。	-	-	-	S-006805	0.002 *	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠
L-001395	産業・業務（業種共通）	断熱	遮熱塗料	低放射遮熱塗料	工業炉の炉壁からの放散熱は、電磁波の熱移動による放射熱（輻射熱）と空気の接触による対流熱を足した値となる。本塗料を炉壁面に5～15μm程度被覆することで、炉壁からの放射熱を大幅な削減が可能となり、消費エネルギーによるCO2排出量削減効果をもたらす。	-	-	-	S-006806	0.15 0	-	放射率	標準規格による評価	JIS A 1423:2017	赤外線放射温度計による放射率の簡易測定方法	εs=εb(θs24-θs14)/(θb24-θb14) εs：垂直放射率 εb：黒色つや消し塗料の放射率 θs1：試料加熱前の赤外線放射温度計による試料の表面温度 θb1：試料加熱前の赤外線放射温度計による黒色塗装(ε=0.94以上)した部分の表面温度 θs2：試料加熱後の赤外線放射温度計による試料の表面温度 θb2：試料加熱後の赤外線放射温度計による黒色塗装(ε=0.94以上)した部分の表面温度	JIS A 1423:2017	赤外線放射温度計による放射率の簡易測定方法	JISA1423:2017に準拠
L-001396	産業・業務（業種共通）	乾燥	乾燥装置	蒸気リサイクル型濃縮乾燥装置	濃縮乾燥プロセスにおいて、被処理物から蒸発した蒸気は従来大気に捨てられていたが、この蒸気を圧縮機で昇温昇圧し、被処理物の加熱源として再利用することにより、投入する化石燃料起因の蒸気量を大幅低減し、CO2排出量削減に繋げる装置。	純水：沸点100℃（大気圧下）	蒸発能力	150L/h	S-006807	1.79 *	-	成績係数（COP）	実績値による評価	-	-	sysCOP＝Cst×M/ (Cst×S/η＋Ce×E) Cst：水蒸気の100℃における全熱エンタルピーと25℃における顕熱エンタルピーの差（＝,2571kJ/kg） M：被処理物から蒸発させた蒸気量[kg] S：ボイラー蒸気量[kg] η：熱損失(蒸気熱量/燃料熱量） Ce：換算係数3.6MJ/kWh E：電力消費量[kWh]	-	-	・本装置は水蒸気と電力を入力として被処理物を蒸留して濃縮・乾燥する装置であり、下記の試験で得たエネルギーのインプット（熱量換算）でアウトプット（蒸発蒸気の熱量）を除して得た値（システムCOP）。 ・最終処分場性能指針に基づき、模擬浸出水の濃縮・乾燥を1m3/日以上、60日以上行った際のデータに基づいて評価。 ・電源の周波数は50Ｈｚとする。 ・ボイラーはＡ重油炊きとする。
								300L/h	S-006808	1.5 *									
								750L/h	S-006809	1.79 *									
L-001397	産業・業務（業種共通）	動力他	洗濯機	業務用ヒートポンプ式衣類洗濯乾燥機	洗濯機と乾燥機からなる。乾燥機部に排熱回収ヒートポンプシステムを搭載し、エバポレータにて衣類乾燥後の湿った空気から集めた熱エネルギーを圧縮機で高温にする。高温の空気をガスクーラで110℃前後の（または「最大115℃の」）温風熱として放出することで衣類を乾かす。従来のガス式と比較して、効率的に熱回収が可能な排熱回収ヒートポンプシステムを採用することで、効率よく乾燥できる。導入先として、福祉施設、病院、等、幅広い施設が挙げられる。	-	乾燥能力（JIMS規格）	9kg以上	S-006810	9.4	kWh/回	消費電力量	標準条件による評価	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、洗濯乾燥1回あたりの電力消費量は、試験（4回以上）によって得られた値の平均値とする。	JIS C 9606及びJIS C 9608	電気洗濯機、回転ドラム式電気衣類乾燥機	JIS C 9606及びJIS C 9608に準拠。ただし、処理物、処理条件は以下の通りとする。 ＜処理物＞ 被洗濯物：JIMS規格による標準洗濯乾燥容量の綿100%バスタオル ＜処理条件＞ 定格電圧：三相交流200V 被洗濯物あたり水量：5.0L/kg以上 被洗濯物あたり洗濯時間：洗濯、すすぎ、脱水工程で各0.5min/kg以上 被洗濯物あたり乾燥時間：4.0min/kg以下 回転速度：設定できる最速の設定（乾燥工程はメーカー推奨の回転速度） 乾燥度（洗濯乾燥後）：97%以上 試験回数：4回以上
L-001401	産業・業務（業種共通）	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	オフィスビルにおけるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、セントラル空調を対象とした制御サービス。	空気熱源仕様	-	-	S-006811	別紙 *	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-
						水熱源仕様	-	-	S-006812	別紙 *	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-
L-001405	産業・業務（業種共通）	空調	その他	二流体加湿器	水と圧縮空気の2種類の流体をノズルから噴射し、平均粒子径10μm前後に微細化した水粒子を空気中に噴射して加湿する機器。コンプレッサにより電気で作った圧縮空気で噴霧して蒸発気化させるため、沸騰で気化させる蒸気加湿に比べて加湿エネルギーが低減できる。	-	-	-	S-006813	80 *	%	給水有効利用率	標準条件による評価	-	-	給水有効利用率＝（出口絶対湿度[kg/kgDA] － 入口絶対湿度[kg/kgDA]) × 風量[m3/h] ÷ 比容積[m3/kgDA] ÷ 噴霧流量[kg/h]	-	-	給水有効利用率の算出にあたっては、噴霧量、供給エア圧、飽和効率、加湿量、風速、入口湿球温度、エリミネータの設置を以下のとおり設定することを条件とする。 噴霧量：定格噴霧量、供給エア圧：0.7MPa以下、飽和効率：85%以上、加湿量：5.6g/kgDA以上、風速：2m/sec±10%、入口湿球温度：15.5℃以下、エリミネータの設置：有

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001408	産業・業務（業種共通）	動力他	その他	サーバ用電子計算機	ネットワーク上でサービス等を提供する24時間稼働することを前提として設計された電子計算機であって、専らネットワークを介してアクセスされる。サーバ型電子気蚫産機に搭載されているCPUは専用CISC、RISC、IA64、IA32の4つに分類され、IA64 、IA32といった汎用CPUはエネルギー消費効率が高い。	H※区分は省エネルギー法による	-	-	S-006814	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						I※区分は省エネルギー法による	-	-	S-006815	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						J※区分は省エネルギー法による	-	-	S-006816	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						K※区分は省エネルギー法による	-	-	S-006817	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
						L※区分は省エネルギー法による	-	-	S-006818	-	W/GTOPS	エネルギー消費効率	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
L-001414	産業（業種固有）	農林水産	その他	農業等暖房用温水発生機	燃焼室、伝熱面から構成され、燃焼によって温められた温水を循環ポンプで栽培用温室内等のパイプに送り、空気と熱交換させ、暖房として利用する。	LPG焚き、50Hz	熱出力	233kW未満	S-006819	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠
								233kW以上465kW未満	S-006820	-									
								465kW以上697kW未満	S-006821	-									
								697kW以上930kW未満	S-006822	-									
								930kW以上1163kW未満	S-006823	-									
								1163kW以上1395kW未満	S-006824	95 *									
								1395kW以上	S-006825	-									
						都市ガス13A焚き、50Hz	熱出力	233kW未満	S-006826	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠
								233kW以上465kW未満	S-006827	-									
								465kW以上697kW未満	S-006828	-									
								697kW以上930kW未満	S-006829	-									
								930kW以上1163kW未満	S-006830	-									
								1163kW以上1395kW未満	S-006831	-									
								1395kW以上	S-006832	-									
						LPG焚き、60Hz	熱出力	233kW未満	S-006833	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠
								233kW以上465kW未満	S-006834	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								465kW以上697kW未満	S-006835	-									
								697kW以上930kW未満	S-006836	-									
								930kW以上1163kW未満	S-006837	-									
								1163kW以上1395kW未満	S-006838	95 *									
								1395kW以上	S-006839	-									
						都市ガス13A焚き、60Hz	熱出力	233kW未満	S-006840	-	%	熱効率	標準規格による評価	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠	JISB8418:2000またはHA010:2015	無圧式温水発生機	JISB8418:2000またはHA010:2015に準拠
								233kW以上465kW未満	S-006841	-									
								465kW以上697kW未満	S-006842	-									
								697kW以上930kW未満	S-006843	-									
								930kW以上1163kW未満	S-006844	-									
								1163kW以上1395kW未満	S-006845	-									
								1395kW以上	S-006846	-									
L-001420	産業（業種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	油圧ショベル（内燃機関型）	建設現場で使用される重機の一種。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型エンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-006847	-	kg/標準作業	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械－エネルギー消費量試験方法―油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械－エネルギー消費量試験方法―油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
								0.36 m3以上0.47 m3未満	S-006848	-									
								0.47 m3以上0.55 m3未満	S-006849	-									
								0.55 m3以上0.70 m3未満	S-006850	-									
								0.70 m3以上0.90 m3未満	S-006851	-									
								0.90 m3以上1.05 m3未満	S-006852	-									
								1.05 m3以上1.30 m3未満	S-006853	-									
								1.30 m3以上1.70 m3未満	S-006854	-									

L2-Tech リストNo	区分 部門1	区分 部門2	区分 技術分類	設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス 条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標 測定単位 単位	指標 測定単位 名称	指標 評価方法のタイプ	指標 計算方法 準拠する規格	指標 計算方法 規格の名称	指標 計算方法 計算式	指標 試験条件 準拠する規格	指標 試験条件 規格の名称	指標 試験条件 説明
L-001421	産業（業種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	ブルドーザ（内燃機関型）	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ディーゼルエンジンの性能向上や、アイドリングの自動停止機能等の装備の他、情報化施工にも対応しており、低炭素化が可能となっている。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	S-006855	-	g/kWh	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械－燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械－燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠
								75kW以上170kW未満	S-006856	-									
								170kW以上300kW未満	S-006857	-									
L-001422	産業（業種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・内燃機関型）	ホイールローダ（内燃機関型）	建設現場で使用される重機の一種。前方に設置されたバケットで土石をすくいあげ、トラック等に積み込む機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。低燃費型のエンジンの導入や、情報化施工による効率的な作業の実施により低炭素化を図ることで、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	定格出力	40kW以上110kW未満	S-006858	-	g/t	燃費	標準規格による評価	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—ホイールローダまたは土工機械—燃料消費量試験方法—ホイールローダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010	土工機械—エネルギー消費量試験方法—ホイールローダまたは土工機械—燃料消費量試験方法—ホイールローダ	JCMASH022:2015またはJCMASH022:2010に準拠
								110kW以上230kW未満	S-006859	-									
L-001424	産業（業種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・ハイブリッド型）	油圧ショベル(ハイブリッド型)	建設現場で使用される重機の一種。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。ハイブリッド型は、動力としてエンジンと電気モータを組み合わせた油圧ショベル。旋回減速時のエネルギーを回収して電気エネルギーとして蓄電し、加速時の補助エネルギーとして利用することで、エンジンで消費される軽油消費量を低減し、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-006860	-	kg/標準作業	燃費	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械－エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械－エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
								0.70 m3以上0.90 m3未満	S-006861	-									
L-001427	産業（業種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・電気型）	油圧ショベル(電動型)	建設現場で使用される重機の一種。ショベルカーとも呼ばれており、アームの先端に取り付けられたバケットによって掘削等の作業を行う機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、動力として電気モータを使用する油圧ショベル。従来型の油圧ショベルで燃料として使用されていた軽油を電力で代替することにより、CO2 排出量の削減が可能となる。	-	標準バケット山積容量	0.25 m3以上0.36 m3未満	S-006862	-	kWh/標準作業	電力消費量	標準規格による評価	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械－エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010	土工機械－エネルギー消費量試験方法—油圧ショベル	JCMASH020:2014またはJCMASH020:2010に準拠
								0.70 m3以上0.90 m3未満	S-006863	-									
L-001428	産業（業種固有）	建設	オフロード特殊自動車（建設機械・電気型）	ブルドーザ(電動型)	土砂の掘削、押土、盛土、整地作業等に用いられる機械。軽油を燃料とするディーゼルエンジンで動力を得るものが一般的である。電動型は、ディーゼルエンジンによって発電機を駆動させ、電動モータにより稼働するブルドーザ。電力駆動を採り入れることで低燃費化を実現している。	-	定格出力	19kW以上75kW未満	S-006864	-	g/kWh	燃費	標準規格による評価	JCMASH021:2010	土工機械－燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠	JCMASH021:2010	土工機械－燃料消費量試験方法	JCMASH021:2010に準拠
								75kW以上170kW未満	S-006865	-									
								170kW以上300kW未満	S-006866	-									
L-001429	産業（業種固有）	食料品製造業	洗浄乾燥機	遠心脱水型コンテナ（容器）洗浄乾燥機	洗浄水加熱用循環加温ヒートポンプ、リンス水加熱用空気熱源ヒートポンプ、遠心脱水型乾燥からなる。循環加温ヒートポンプによって保温された洗浄槽で洗浄し、空気熱源ヒートポンプで加熱された湯でリンスをし、遠心脱水機で乾燥をする設備。熱源機でつくった熱風で乾燥する熱風方式と遠心脱水機で乾燥する遠心脱水方式がある。従来型と比較してヒートポンプの採用により効率的に洗浄ができ、遠心脱水機の採用により少ない水、消費エネルギーで乾燥ができる。食品・飲料工場や自動車工場等、幅広い用途へ導入が可能である。	-	処理速度	75～150サイクル/h	S-006867	0.049	kWh/台	コンテナ１台あたりの電力消費量	標準条件による評価	-	-	P = (A+B+C+D+E+F+G+H)/I、P ： コンテナ1台あたりの電力消費量［kWh］、A ： 主搬送コンベアの電力消費量［kWh］、B ： 搬入出コンベアの電力消費量［kWh］、C ： 洗浄ポンプの電力消費量［kWh］、D ： リンスポンプの電力消費量［kWh］、E ： 洗浄槽旋回の電力消費量［kWh］、F ： 遠心脱水駆動［kWh］、G ： 排気ファン［kWh］、H ： ヒートポンプの電力消費量［kWh］、I ： コンテナ総数［台］	-	-	＜処理物＞ コンテナ ：「食品クレート標準 共有化ガイドライン」で規定されている食品クレート標準Ⅰ型、またはⅡ型洗・深用 ＜処理条件＞ 高温水ヒートポンプ（空気熱源・循環式）（洗浄側） 温水出口温度：65℃以上70℃以下、乾球温度：16℃、湿球温度：12℃、温水出入口温度差：5℃ 高温水ヒートポンプ（空気熱源・一過式）（リンス側） ：JRA4060:2014に準拠 含水率（脱水後）： 1%未満（ワーク質量に対する割合） 汚れ度（洗浄前/洗浄後） APT値：3000RLU以上 / 1000RLU未満
								151～225サイクル/h	S-006868	0.036									
L-001430	産業（業種固有）	食料品製造業	業務用冷凍機器	低温用自然冷媒冷凍機（アンモニア/CO2二次冷媒システム）	一次冷媒（アンモニア）を用いた冷凍装置で二次冷媒（CO2)を低温まで冷却し、食品等を凍結装置するフリーザー装置などに供給する。	装置内温度-42℃超-25℃未満	冷凍能力	100kW以下	S-006869	1.62 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、CO2温度、凝縮温度をそれぞれ次のとおり設定することを条件とする。CO2温度：-42℃超-27℃以下、冷却水入口温度：32℃

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								100kW超150kW以下	S-006870	1.62 *									
								150kW超	S-006871	1.7 *									
L-001431	産業（業種固有）	食料品製造業	その他	低温蒸気式加熱殺菌装置	低温蒸気式発生装置及び熱交換器からなる。真空状態で発生させた低温の蒸気を熱媒として、熱交換器を介して製品の加熱殺菌を行う装置。従来の温水式と比べ、エネルギー効率を向上できるとともに、熱媒側が負圧であるため、隔壁破損の場合に製品側への流入を防げるなど安全性も向上でき、食品製造工場や医薬品製造工場など、殺菌を必要とする場で使用される。	0	0	0	S-006872	0.78 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	sysCOP＝cm×M×(tout-tin)/ (Cst×S/η＋Ce×E) cm：処理対象物の比熱（水と同一、4.186[kJ/K･kg]） M：処理対象物の量[kg] tin, tout：処理対象物の装置入口、出口温度 Cst：（ボイラー出口の単位蒸気量あたりの熱量）－（ボイラー入口の単位給水量あたりの熱量） S：ボイラー蒸気量[kg]	-	-	蒸気ボイラの燃料：A重油、給水温度：20℃、蒸気圧力：0.7MPaG、効率：0.85とする。ポンプの負荷率を0.7とする。
L-001432	産業（業種固有）	繊維工業	乾燥機	熱回収式工業用織編物乾燥機	ネットコンベアー内の熱風ノズルにより熱風を吹付けることによって、織編物の染色・水洗後の乾燥・防縮・風合加工行う設備。乾燥機内で織編物を乾燥して発生した水蒸気は排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、蒸気、または熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	1室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006873	3.13	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006874	3.22									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006875	3.4									
						1室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006876	3.06	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006877	3.15									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006878	3.33									
						2室3段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006879	2.85	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006880	2.91									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006881	3.01									
						2室5段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006882	2.81	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006883	2.86									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件			
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006884	2.94									
						3室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006885	2.81	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006886	2.86									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006887	2.94									
						4室2段	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006888	-	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞、素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006889	-									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006890	-									
L-001433	産業（業種固有）	繊維工業	熱処理機	熱回収式工業用繊編物熱処理機	繊編物の乾燥後に、繊編物の形態を整え、寸法を安定化するために熱固定を行う設備。熱固定を行う際には、熱風ノズルにより繊編物に熱風を吹付ける。繊編物を加熱することによって発生した熱処理機内のガスは排気ファンにより排出され最適な状態に保たれる。熱風の熱源としては、ガス直接燃焼による加熱方式と、熱媒体油による熱交換器を用いた間接加熱方式がある。	3室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006891	2.1	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006892	2.12									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006893	2.14									
						4室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006894	2.05	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006895	2.05									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006896	2.08									
						5室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006897	2.01	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006898	2.01									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件			
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006899	2.03									
						6室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006900	1.98	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006901	1.99									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006902	2									
						7室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006903	1.96	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006904	1.96									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006905	1.98									
						8室	ローラー幅	1800mmW以上2000mmW未満	S-006906	1.95	MJ/kg	単位重量当たりの熱量	シミュレーションによる評価	-	-	Q=（qA+qB+qC+qD+qE）÷m 、Q:処理布の単位重量当たりの熱量［MJ/kg］、qA:保温版（床面含む）からの放熱量［MJ/h］、qB:処理布の昇温熱量［MJ/h］、qC:含有水分の昇温・蒸発熱量［MJ/h］、qD:給気・排気による損失熱量［MJ/h］、qE:出入口からの吹出し吸込み損失熱量［MJ/h］、m:単位時間当たりに処理した生地重量［kg/h］※小数点以下を切り捨て	-	-	時間当たりの熱量の算出にあたっては、定常な操業状態において、処理布、処理条件を次のとおり設定することを条件とする。＜処理布＞素材：ポリエステル100%織物、布幅：1540mmW、目付：200g/m2、＜処理条件＞処理温度：140℃、水分率（入口/出口）：70～75% / 2%以下
								2000mmW以上2300mmW未満	S-006907	1.95									
								2300mmW以上2500mmW以下	S-006908	1.96									
L-001441	産業（業種固有）	化学工業	蒸留塔	内部熱交換最適化蒸留システム	濃縮部（高圧塔）と回収部（低圧塔）が物理的に分かれており、その間に圧縮機が設置されている蒸留塔。濃縮部の圧力をわずかに上げることで内部温度を上昇させた後に、熱を自然循環によって回収部に移動させ蒸留を行う。外部冷却により廃棄せざるを得なかった熱を自己再利用するため、リボイラーに供給する熱エネルギーを大幅に削減可能。	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	-	S-006909	別紙	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-
L-001442	産業（業種固有）	化学工業	その他	MVR型（自己蒸気機械圧縮型）蒸発濃縮装置	主要機器はヒータ（蒸発器）と蒸気圧縮機で、これにコンデンサーや予熱器、ポンプ類が付属する装置である。蒸発器のヒータにて蒸発した蒸気を圧縮機で昇圧・昇温し自己のヒータの加熱源として再利用する技術で、蒸発潜熱を100%利用できる。定常運転時には加熱用蒸気や冷却水が殆ど不要となるため、省エネルギー性が極めて高い。本装置は加熱側と蒸発側の温度差が小さく、ヒータ構造もシンプルなので、各種プロセス溶液や一般排水の濃縮、或いは溶剤含有排水からの水回収及び溶剤回収等幅広い分野で使用されている。	ヒーター形式：液膜降下式	-	-	S-006910	20 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP＝Q/P、COP：成績係数、Q：プロセス流体の蒸発濃縮で消費した熱エネルギー［kW］、P：圧縮機で消費した電気エネルギー［kW］	-	-	加熱面での蒸気温度：80℃、加熱側圧力：47.4kPa、圧縮機圧縮温度：6℃
						ヒーター形式：水平管式	-	-	S-006911	20 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP＝Q/P、COP：成績係数、Q：プロセス流体の蒸発濃縮で消費した熱エネルギー［kW］、P：圧縮機で消費した電気エネルギー［kW］	-	-	加熱面での蒸気温度：76℃、加熱側圧力：39.3kPaA、圧縮機圧縮温度：6℃
L-001466	運輸	自動車	自動車（内燃機関型）	ガソリン・ディーゼル車（乗用車）	(ガソリン車)ガソリンエンジンを搭載した自動車。国内における乗用車の大半がガソリン車である。(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。	ガソリン車、軽自動車	-	軽自動車	S-006912	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
						ガソリン車、小型自動車	-	SUV	S-006913	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								コンパクトカー	S-006914	-									
								セダン	S-006915	-									
								ミニバン	S-006916	-									
								ワゴン	S-006917	-									
						ガソリン車、普通自動車	-	SUV	S-006918	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
								スポーツカー	S-006919	-									
								セダン	S-006920	-									
								ミニバン	S-006921	-									
								ワゴン	S-006922	-									
						ディーゼル車、小型自動車	-	コンパクトカー	S-006923	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
						ディーゼル車、普通自動車	-	SUV	S-006924	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
								セダン	S-006925	-									
								ミニバン	S-006926	-									
								ワゴン	S-006927	-									
L-001467	運輸	自動車	自動車（内燃機関型）	ディーゼル・天然ガス車（商用車・重量車）	(ディーゼル車)ディーゼルエンジンを搭載した自動車。(天然ガス車)現在、国内で使用されている天然ガス自動車の多くは、ディーゼル車やガソリン車をベースとし、改造することによって天然ガス車として走行している。一方、メーカーにおいては圧縮天然ガス(CNG)エンジンの開発も進められている。	貨物自動車、トラクタ	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-006928	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによ	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによ	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-006929	-									
						貨物自動車、トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-006930	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モード	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モード	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-006931	-									

L2-Tech リストNo	区 分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指 標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								区分3※区分は省エネルギー法による	S-006932	-									
								区分4※区分は省エネルギー法による	S-006933	-									
								区分5※区分は省エネルギー法による	S-006934	-									
								区分6※区分は省エネルギー法による	S-006935	-									
								区分7※区分は省エネルギー法による	S-006936	-									
								区分8※区分は省エネルギー法による	S-006937	-									
								区分9※区分は省エネルギー法による	S-006938	-									
								区分10※区分は省エネルギー法による	S-006939	-									
								区分11※区分は省エネルギー法による	S-006940	-									
						乗用自動車、一般バス	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-006941	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値）	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値）	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-006942	-									
								区分3※区分は省エネルギー法による	S-006943	-									
								区分4※区分は省エネルギー法による	S-006944	-									
								区分5※区分は省エネルギー法による	S-006945	-									
								区分6※区分は省エネルギー法による	S-006946	-									
								区分7※区分は省エネルギー法による	S-006947	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						乗用自動車、路線バス	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-006948	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-006949	-									
								区分3※区分は省エネルギー法による	S-006950	-									
								区分4※区分は省エネルギー法による	S-006951	-									
								区分5※区分は省エネルギー法による	S-006952	-									
L-001469	運輸	自動車	自動車（ハイブリッド型）	ハイブリット自動車（乗用車）	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリット技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	小型自動車	-	コンパクトカー	S-006953	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
								セダン	S-006954	-									
								ミニバン	S-006955	-									
								ワゴン	S-006956	-									
						普通自動車	-	SUV	S-006957	-	km/l	燃費	標準規格による評価	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠	JISD1012:2005に基づくJC08モード	自動車-燃料消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1012:2005に基づくJC08モードに準拠
								スポーツカー	S-006958	-									
								セダン	S-006959	-									
								ミニバン	S-006960	-									
								ワゴン	S-006961	-									
L-001470	運輸	自動車	自動車（ハイブリッド型）	ハイブリット自動車（商用車・重量車）	動力として内燃機関と電気モータを組み合わせた自動車。一時的にエネルギーをバッテリーやキャパシタに貯蔵し、必要に応じ電気モータを介して動力とする。効率の低いエンジン作動区域にハイブリット技術を使うことにより高効率運転が可能となる。	トラクタ以外	-	区分1※区分は省エネルギー法による	S-006962	-	km/l	燃費	標準規格による評価	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値）	国土交通省審査で定める計算式	-	国土交通省審査に準ずる（都市内走行モードと都市間走行モードそれぞれによる走行を車種等によって異なる割合で合算した燃費値）	国土交通省審査で定める試験条件
								区分2※区分は省エネルギー法による	S-006963	-									
								区分3※区分は省エネルギー法による	S-006964	-									
								区分4※区分は省エネルギー法による	S-006965	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								区分5※区分は省エネルギー法による	S-006966	-									
L-001472	運輸	自動車	自動車（電気型）	電気自動車（乗用車）	従来の内燃機関のかわりに、バッテリーに充電した電力を動力源としてモータで走行する自動車。	軽自動車	-	軽自動車	S-006967	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠
						普通自動車	-	ワゴン	S-006968	-	Wh/km	交流充電電力消費量	標準規格による評価	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠	JISD1301:2001に基づくJC08モード	電気自動車-一充電走行距離及び交流充電電力量消費率試験方法に基づくJC08モード	JISD1301:2001に基づくJC08モードに準拠
L-001480	家庭	給湯	給湯器（ヒートポンプ）	家庭用エコキュート	自然冷媒（CO2）を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率な給湯システム。ヒートポンプユニットと給湯（貯湯）ユニットで構成されている。	一般地仕様、少人数世帯、保温あり	貯湯容量	185L	S-006969	2.8	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、１缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006970	4	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006971	3	-	年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温なし、１缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006972	3.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、１缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006973	3.3	-	寒冷地年間給湯保温効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温なし、１缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006974	2.9	-	寒冷地年間給湯効率	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-001481	家庭	給湯	給湯器（ヒートポンプ）	多機能ヒートポンプ給湯機	自然冷媒（CO2）を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率の給湯暖房システム。ヒートポンプユニットと給湯（貯湯）ユニット、床暖房端末で構成されている。1台のヒートポンプによって給湯、および床暖房が可能であるため、高効率化が可能	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006975	3.9	-	年間給湯保温効率（床暖房部分除く）	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
						寒冷地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満	S-006976	3	-	寒冷地年間給湯保温効率（床暖房部分除く）	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-001482	家庭	給湯	給湯器（ガス式）	ガス温水機器（エコジョーズ）	ガスを燃料としたバーナーによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器。	給湯専用機	-	-	S-006977	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房給湯兼用機	-	-	S-006978	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011及びJISS2109:2010R	家庭用ガス温水熱源機及び家庭用ガス温水機器	JISS2112:2011及びJISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						暖房専用機	-	-	S-006979	87	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2112:2011	家庭用ガス温水熱源機	JISS2112:2011に準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
						風呂給湯兼用機	-	-	S-006980	95.1	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS2109:2010R	家庭用ガス温水機器	JISS2109:2010Rに準拠	JISS2093:2010	家庭用ガス燃焼機器の試験方法	JISS2093:2010に準拠
L-001483	家庭	給湯	コージェネレーション	家庭用燃料電池（エネファーム・PEFC）	燃料電池は燃料から直接電気エネルギーを取り出すことができ、化石燃料を燃焼させる従来の発電システムに比べて、高い発電効率、優れた環境特性、排熱利用による高い総合効率、量産による低コスト化の可能性等の特長を持つ。発電の原理は、電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させるというものである。PEFC（固体高分子形燃料電池）は、電解質に固体高分子を用い、動作温度は80～100℃、白金が触媒として使われており、都市ガス、LPG（液化石油ガス）を燃料としている。排熱効率が高く、SS（Daily Start and Stop）が容易である。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW 以下）。	-	定格内容積	-	S-006981	95	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
							-	-	S-006982	39	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠	JISC8823:2008	小形固体高分子形燃料電池システムの安全性及び性能試験方法	JISC8823:2008に準拠
L-001484	家庭	給湯	コージェネレーション	家庭用燃料電池（エネファーム・SOFC）	SOFC（固体酸化物形燃料電池）は、電解質にセラミックを用い、動作温度は700～750℃である。発電効率が高く24 時間運転が多い。ここでは、主に家庭用として用いられる製品を取り扱う（現行販売製品の電気の定格出力は1kW 以下）。	燃料：都市ガス（13A、12A）	-	-	S-006983	87	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠
								-	S-006984	52	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠
						燃料：LPガス	-	-	S-006985	85	%	総合効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠
								-	S-006986	51	%	発電効率	標準規格による評価	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠	JISC8841-3:2011	小形固体酸化物形燃料電池システム－第３部：性能試験方法及び環境試験方法	JISC8841-3:2011に準拠
L-001485	家庭	厨房	冷凍冷蔵機器	電気冷蔵庫	冷媒を用いて圧縮-凝縮-膨張-蒸発の冷凍サイクルを繰り返すことにより庫内を冷却する冷蔵庫。インバータ制御の高効率コンプレッサーと熱伝導が小さい真空断熱材を使用することにより消費電力量を削減することが可能である。（大型冷蔵庫の一部では既に採用されている）冷媒と断熱材にフロンを使用していない冷蔵庫のことを、ノンフロン冷蔵庫と呼び、現在出荷されている家庭用冷蔵庫のほとんどはイソブタン（冷媒）、シクロペンタン（断熱材発泡剤）を使用したノンフロン冷蔵庫である。冷蔵庫の冷却方法には直冷式と間冷式があり、一般に直冷式のほうが効率が高い。しかし、日本は湿度が高く、冷却器表面に霜がついて冷却能力が落ちるため、間冷式が主流である。	-	定格内容積	140L以下	S-006987	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	JISC9801-3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法－第３部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801-3:2015に準拠	JISC9801-3:2015	家庭用電気冷蔵庫及び電気冷凍庫の特性及び試験方法－第３部：消費電力量及び内容積の算出	JISC9801-3:2015に準拠
								140L超200L以下	S-006988	-									
								200L超250L以下	S-006989	-									
								250L超300L以下	S-006990	-									
								300L超350L以下	S-006991	-									
								350L超400L以下	S-006992	-									
								400L超450L以下	S-006993	-									
								450L超500L以下	S-006994	-									
								500L超	S-006995	-									
L-001486	家庭	照明	照明器具	LED照明器具（家庭用）	蛍光灯や白熱灯と比較して高効率で長寿命な白色LED(発光ダイオード)を光源に使用した照明器具が普及している。LED 照明は、主に直付け(シーリング)カバー付型、ダウンライト型、電球型があり、他にスポットライト型、ブラケット型などもある。LED 素子が器具に取り付けられ、ランプ交換は無いものが大半である。光の広がり(ビームの開き)を広くしたもの、発光色を切り替えるもの等が登場している。一般的には、「温白色、電球色」よりも「昼光色、昼白色、白色」の方がエネルギー効率（lm/W）は高くなる。	シーリングライト型	適用畳数	～4.5畳	S-006996	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998に準拠
								～6畳	S-006997	155.4									
								～8畳	S-006998	175.1									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								～10畳	S-006999	174.3									
								～12畳	S-007000	174.8									
								～14畳	S-007001	172.7									
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°以下	-	-	S-007002	-	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角30°超60°以下	-	-	S-007003	93.3	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、温白色、電球色、配光角60°超	-	-	S-007004	128.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°以下	-	-	S-007005	111.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角30°超60°以下	-	-	S-007006	112.5	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ダウンライト型、昼光色、昼白色、白色、配光角60°超	-	-	S-007007	112.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
						ペンダントライト型	適用畳数	～4.5畳	S-007008	125.1	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
								～6畳	S-007009	138.7									
								～8畳	S-007010	133.4									
								～10畳	S-007011	127									
								～12畳	S-007012	137.4									
								～14畳	S-007013	-									
						電球形LEDランプ組込型、温白色、電球色、電球形LEDランプ2灯以上	-	-	S-007014	114.9	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び JISZ8113:1998	照明器具－第３部：性能要求事項通、照明器具－第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						電球形LEDランプ組込型、昼白色、昼光色、白色、電球形LEDランプ2灯以上	-	-	S-007015	84.4	lm/W	固有エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及びJISZ8113:1998	照明器具ー第３部：性能要求事項通、照明器具ー第５部：配光測定方法及び照明用語	JISC8105-3:2011、JISC8105-5:2011及び、JISZ8113:1998に準拠
L-001487	家庭	断熱	窓	Low-E複層ガラス（家庭用）	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	S-007016	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+A6+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-001488	家庭	断熱	窓	三層Low-E複層ガラス（家庭用）	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	S-007017	0.8	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar11+FL3+Ar11+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-001489	家庭	断熱	窓	真空Low-E複層ガラス（家庭用）	真空ガラスとLow-Eガラスを組み合わせた複層ガラスにすることで、放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	新築用	-	-	S-007018	0.74	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar9+FL3+V0.2+LE3のガラス構成における数値を示す。
L-001490	家庭	断熱	窓	アタッチメント付きLow-E複層ガラス（家庭用）	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントにより、ガラス部分のみを既存サッシに取り付けられるため、大かりな工事を必要としない。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	S-007019	2.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Ar4+FL3（アタッチメント付き）のガラス構成における数値を示す。
L-001491	家庭	断熱	窓	真空ガラス（家庭用）	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	S-007020	1	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法、複層ガラス及び複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。ただし、真空ガラスについては、複層ガラスの性能の向上に関する熱損失防止建築材料製造事業者等の判断の基準等（平成26年11月28日経済産業省告示第235号）に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+V0.2+FL3のガラス構成における数値を示す。
L-001492	家庭	断熱	窓	現場施工型後付けLow-E複層ガラス（家庭用）	既存の窓ガラスの上からLow-Eガラスを貼ることで放射による熱移動量を低減したガラス。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。	リフォーム用	-	-	S-007021	1.6	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、FL6+A12+LE5のガラス構成における数値を示す。
L-001493	家庭	断熱	窓	薄型Low-E複層ガラス（家庭用）	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラス。アタッチメントを使用せずにガラス部分のみを既存サッシに取り付けることができる。断熱を行うことによって、より少ないエネルギーで空調を行うことができるようになる。主に住宅等に導入されている。	リフォーム用	-	-	S-007022	2.5	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠	JISR3107:2019及びJISR3209:2018	板ガラス類の熱抵抗及び建築における熱貫流率の算定方法及び複層ガラス	JISR3107:2019及びJISR3209:2018に準拠。 ただし、L2-Tech水準は、LE3+Kr2.5+FL3のガラス構成における数値を示す。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001494	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	S-007023	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-007024	1.46	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し	-	-	S-007025	1.27	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001495	家庭	空調	窓	Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生の軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	S-007026	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-007027	1.7	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し	-	-	S-007028	1.52	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001496	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、樹脂製のサッシを組み合わせた窓。	FIX	-	-	S-007029	0.75	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-007030	1.06	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リストNo	区分 部門1	区分 部門2	区分 技術分類	設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス 条件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)	L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標 測定単位 単位	測定単位 名称	評価方法のタイプ	計算方法 準拠する規格	計算方法 規格の名称	計算方法 計算式	試験条件 準拠する規格	試験条件 規格の名称	試験条件 説明
						縦すべり出し	-	-	S-007031	0.79	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001497	家庭	空調	窓	三層Low-E複層ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	三層で構成される複層ガラスの中空層側のガラス面にLow-E金属膜をコーティングすることで放射による熱移動量を低減したガラスと、アルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生の軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX	-	-	S-007032	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-007033	1.22	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し	-	-	S-007034	1.03	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001498	家庭	空調	窓	五層Low-E複層ガラス・樹脂サッシ	樹脂（塩化ビニル等）等の熱伝導率が低いフレームと、多層の密閉中空層をもったガラスからなる。中空層には断熱ガス（アルゴンガス、クリプトンガス等）を充填することでガラスの熱伝導率の高さを補う構造。現在日本国内では、樹脂フレームを用いた開口部には断熱性能が低いものから順に、1枚のガラスを用いたもの、2枚のガラス（一つの密閉中空層）を用いたもの、3枚のガラス（二つの密閉中空層）を用いたもの、5枚のガラス（四つの密閉中空層）を用いたものが使用されており、2枚のガラスを用いたものが最も多く流通している。今後は省エネ基準義務化等が予定されていることから、さらなるガラスの多層化が予想される。従来品と比較して高い断熱性能を持つことから、特に寒冷地の戸建住宅への採用に相応しい。	FIX	-	-	S-007035	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い	-	-	S-007036	-	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し	-	-	S-007037	0.55	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001499	家庭	空調	窓	真空ガラス・樹脂サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスと樹脂サッシを組み合わせた窓。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-007038	1.09	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						引き違い※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-007039	1.38	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-007040	1.19	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001500	家庭	空調	窓	真空ガラス・アルミ樹脂複合サッシ	2枚のガラスの間に真空層を設けることで、熱移動量を低減したガラスとアルミ樹脂複合サッシを組み合わせた窓。アルミ樹脂複合サッシは、アルミ製（室外側）と樹脂製（室内側）のサッシを室内側の結露の発生の軽減や断熱性の向上を目的に一体化したものである。	FIX※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-007041	1.32	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						引き違い※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-007042	1.66	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
						縦すべり出し※右記の水準は、一般社団法人リビングアメニティ協会が提供する、窓の断熱性能プログラム「WindEye」を用いて算出	-	-	S-007043	1.59	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	建具の断熱性試験方法、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第１部：一般及び窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第２部：フレームの数値計算方法	JISA4710:2015、JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001501	家庭	空調	玄関ドア	金属製玄関ドア	住宅の玄関に使用する、アルミニウムまたはスチールを主材料としたドアにおいて、枠の内側に樹脂を使用して中空部に断熱材を充填、また扉も同様中空部に断熱材を充填する事で玄関ドアの熱貫流率を低くする事ができる。熱貫流率が低い製品ほど冷暖房負荷及びＣＯ２排出量が削減できる。	-	-	-	S-007044	0.89	W/m2K	熱貫流率	標準規格による評価	JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011	窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第1部：一般、窓及びドアの熱性能－熱貫流率の計算－第2部：フレームの数値計算方法	JISA2102-1:2015及びJISA2102-2:2011に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。	JISA4710:2015	建具の断熱性試験方法	JIS4710:2015に準拠。国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「住宅・建築物の省エネルギー基準及び低炭素建築物の認定基準に関する技術情報」に基づく代表試験体サイズによる認証を行う。代表試験体サイズで認証された場合は、全てのサイズにおいて認証を適用する。
L-001502	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・押出法ポリスチレンフォーム)	スチレン樹脂・発泡剤・難燃剤等を押出機中で混和・溶融し、大気中に連続的に押し出して発泡させ、成型後、板状製品に裁断加工することで製造する。	-	-	-	S-007045	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014	発泡プラスチック保温材または建築用断熱材	JISA9511:2006RまたはJISA9521:2014に準拠
L-001503	家庭	断熱	断熱材	断熱材(家庭用・グラスウール)	原材料を1400℃程度の高温で溶解、スピナーと呼ばれる繊維化装置に孔を開けることにより遠心力で繊維化し、結束剤を添加し綿状にすることで製造する。	天井用	-	-	S-007046	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
						壁用	-	-	S-007047	-	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠	JISA9521:2014	建築用断熱材	JISA9521:2014に準拠
L-001504	家庭	断熱	断熱材	真空断熱材（家庭用）	家庭用冷蔵庫に使用されている、真空断熱材を使用した断熱材。従来の断熱材と比較して薄いため、天井や壁、床等への部分断熱等のリフォーム（内貼断熱工法）に向く。	-	-	-	S-007048	0.002 *	W/m・K	熱伝導率	標準規格による評価	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠	JISA1412:2016	熱絶縁材の熱抵抗及び熱伝導率の測定方法	JISA1412:2016に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001505	家庭	動力他	洗濯機	洗濯乾燥機	洗濯乾燥機とは、洗濯機と衣類乾燥機が一体化した機器である。ヒートポンプシステム(ユニット)が熱交換した熱で衣類を乾燥し、乾燥時に発生する水蒸気もヒートポンプシステム(ユニット)により冷却して除湿している。乾燥時の温度は約70℃前後である。	-	-	-	S-007049	0.59	kWh/回	消費電力量	標準規格による評価	-	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める計算式	-	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」	一般社団法人日本電機工業会・自主基準「洗濯性能評価方法」「乾燥性能評価方法」で定める試験条件
L-001509	家庭	エネルギーマネジメント	エネルギーマネジメントシステム	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	一般家庭等での省エネ効果を高めるエネルギー管理システム、及び同システムを用いたサービスのうち、家庭全体のエネルギー消費状況の把握や省エネ・節電を目的とした情報提供サービス。	-	-	-	S-007050	別紙 *	%	エネルギー消費効率	具備機能による評価	-	-	-	-	-	-
L-001511	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ）	ルームエアコン	冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。	-	冷房能力	2.2kW	S-007051	7.6	-	通年エネルギー消費効率（APF）	標準規格による評価	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2005	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠
								2.5kW	S-007052	7.6									
								2.8kW	S-007053	7.5									
								3.6kW	S-007054	7.6									
								4.0kW	S-007055	7.9									
								4.5kW	S-007056	6.8									
								5.0kW	S-007057	6.2									
								5.6kW	S-007058	7.1									
								6.3kW	S-007059	6.9									
								7.1kW	S-007060	6.5									
								8.0kW	S-007061	6.2									
								9.0kW	S-007062	5.5									
L-001512	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ）	ヒートポンプ冷温水システム	空気熱源を利用するヒートポンプ式の冷温水冷暖房機。暖房時はコンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で凝縮させることにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で蒸発させることにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率に得ることができる。従来は灯油を燃焼させ暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	-	加熱能力	4.0kW以下	S-007063	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度)：25℃、往き水温(出湯温度)：40℃、乾球温度：7℃、湿球温度：6℃
								4.0kW超6.0kW以下	S-007064	-									
								6.0kW超7.0kW以下	S-007065	-									
								7kW超12kW以下	S-007066	-									
								12.0kW超	S-007067	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式		準拠する規格	規格の名称	説 明
						往き水温(出湯温度)15℃	冷却能力	4.0kW以下	S-007068	-	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]		-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を以下のとおり設定することを条件とする。 往き水温(出湯温度)：15℃ 乾球温度：35℃ 湿球温度：24℃ 流量：6.4L/min
								4.0kW超5.6kW以下	S-007069	-										
								5.6kW超7.2kW以下	S-007070	-										
								7.2kW超	S-007071	-										
						往き水温(出湯温度)7℃	冷却能力	4.0kW以下	S-007072	3	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]		-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度を以下のとおり設定することを条件とする。 戻り水温（入水温度）：12℃ 往き水温（出湯温度）：7℃ 乾球温度：35℃
								4.0kW超5.6kW以下	S-007073	2.84										
								5.6kW超7.2kW以下	S-007074	3										
								7.2kW超	S-007075	-										
L-001513	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ）	ヒートポンプ式温水床暖房	空気熱源ヒートポンプ式の温水暖房機。コンプレッサーで圧縮した気相冷媒を冷媒／水熱交換器内で凝縮させることにより温熱を得る。四方弁の切り替えにより冷熱を供給するタイプも存在する。ヒートポンプ方式を採用しているため、温熱を高効率に得ることができる。	-	加熱能力	5kW以下	S-007076	4.62 *	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]		-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度)：25℃、往き水温(出湯温度)：40℃、乾球温度：7℃、湿球温度：6℃
								5kW超7kW以下	S-007077	4.32 *										
								7kW超10kW以下	S-007078	4.16 *										
								10kW超	S-007079	4.3 *										
L-001514	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ）	ルームエアコン付温水床暖房	空気熱源ヒートポンプに温水床暖房ユニットとルームエアコンディショナが付加された機器。暖房時は床暖房とエアコンの組み合わせ運転を主に行う。負荷の大きな立ち上がり時にはエアコンで急速暖房を行い、床暖房の高温送水による効率の低下を抑制。安定時には床暖房の送水温度を下げるとともに、エアコンも省エネ運転とするなどの制御により高効率化を図る。冷房時はエアコンの単独運転となる。	床暖房、エアコン同時運転	加熱能力	5.0kW	S-007080	4.5	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]		-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度)：30℃、往き水温(出湯温度)：35℃、乾球温度：7℃、湿球温度：6℃
								6.7kW	S-007081	4.32										
						床暖房単独運転	加熱能力	8.7kW	S-007082	4.16	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P COP:成績係数 Φ:定格能力[W] P:定格消費電力[W]		-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を以下のとおり設定することを条件とする。 戻り水温(入水温度)：25℃ 往き水温(出湯温度)：40℃ 乾球温度：7℃ 湿球温度：6℃

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001515	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ）	マルチタイプ温水床暖房	複数の部屋に設置された温水床暖房ユニットやルームエアコンディショナ等と空気熱源ヒートポンプを組み合わせて使用する機器。1台の空気熱源ヒートポンプが複数の部屋の空調機器に接続できるため、高効率化が可能。	-	1室運転時加熱能力	5.0kW 7.0kW	S-007083 S-007084	3.9 3.91	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。戻り水温(入水温度)：25℃、往き水温(出湯温度)：40℃、乾球温度：7℃、湿球温度：6℃
L-001516	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ・地中熱利用）	地中熱ルームエアコン	地中熱を利用し、冷媒による圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを繰り返すことにより、室内を冷房あるいは暖房する空気調和機。冬季は外気温度より高い温度の熱源を、夏季は外気温度より低い温度の熱源を利用することで年間を通じて高効率な運転が可能。	-	冷房能力	4.0kW	S-007085	4	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	JISC9612:2005に準拠	JISC9612:2013	ルームエアコンディショナ	JISC9612:2005に準拠。ただし、地中戻り温度(採熱温度)については20℃とする。
L-001517	家庭	空調	空調機（ヒートポンプ・地中熱利用）	地中熱ヒートポンプ冷温水システム（ハイブリッド式）	空気熱源と地中熱源の2種類の熱源の切り替えが可能なヒートポンプ式の冷温水冷暖房機。圧縮-凝縮-膨張-蒸発のヒートポンプサイクルを利用して、冷暖房するシステム。暖房時はコンプレッサで圧縮した気相冷媒を凝縮器で冷媒／水熱交換器内で凝縮させることでにより温熱を、冷房時は圧縮-凝縮-膨張後の液相冷媒を蒸発器で液相冷媒を冷媒／水熱交換器内で蒸発させることでにより冷熱を得る。ヒートポンプ方式を採用しているため、冷温熱を高効率に得ることができる。従来型は灯油を燃焼し暖房するため、一般的なボイラーの効率が80%であるのに対し、ヒートポンプ方式を用いることで高い効率となる。導入先は主に家庭向けとなる。	-	加熱能力	8.0kW 11.0kW	S-007086 S-007087	5.19 5	-	成績係数（COP）	標準条件による評価	-	-	COP=Φ/P、COP:成績係数、Φ:定格能力[W]、P:定格消費電力[W]	-	-	成績係数(COP)の算出にあたっては、地中戻り水温(入水温度)、往き水温(出湯温度)、乾球温度、湿球温度を次のとおり設定することを条件とする。地中戻り温度（採熱温度）：15℃、往き水温(出湯温度)：40℃、乾球温度：7℃、湿球温度：6℃
L-001518	家庭	空調	空調機（ペレットストーブ）	密閉式ペレットストーブ（家庭用）	木質ペレットを燃料とする燃焼機器。木質ペレットを燃焼させた熱を熱交換器により室内の空気に伝え、送風ファンにより部屋の隅々まで温風を行き渡らせる。燃焼させた空気は煙突から排気させるため、室内の空気と交ることはなく、清潔な環境を保つことができる。木質ペレットは、カーボンニュートラルであるため、CO2の排出削減が可能。	-	-	-	S-007088	77 *	%	熱効率	標準条件による評価	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	η＝100－(qa＋qb＋qr) 、η：熱効率[%]、qa：試験燃料中の発熱量当たり排気ガス中の熱損失（Qa）の比、熱による熱損失の割合（燃焼基準）[%]、qb：試験燃料の熱容量当たり排気ガス中の化学的熱損失（Qb）、の潜熱による熱損失の割合（燃焼基準）[%]、qr：試験燃料の熱容量当たり底部格子を通過し残渣物中に残った可燃性構成物質による熱損失（Qr）の残渣物中の可燃性構成、物質による損失の割合（燃焼基準）[%]※発熱量は高位発熱量とする	JHIAN-5601:2004	木質バイオマス燃焼機器の試験方法通則	JHIAN-5601:2004に準拠、、試験実施にあたっては、ISO17025に準拠した試験機関による性能評価を行うこととする。
L-001519	家庭	給湯	給湯器（ヒートポンプ・太陽熱利用）	太陽熱集熱器対応型エコキュート	自然冷媒（CO2）を用い、電動ヒートポンプサイクルにより65℃以上の高温沸きあげが可能な高効率の給湯システムに太陽熱集熱器を組み合わせたシステム。ヒートポンプユニットと給湯（貯湯）ユニット、集熱器で構成されている。日中は、太陽熱を利用するため、高効率化が可能。	一般地仕様、標準世帯、保温あり、1缶	貯湯容量	320L以上550L未満 320L以上550L未満	S-007089 S-007090	3 3	-	年間給湯保温効率（太陽熱部分除く）	標準規格による評価	JRA4050:2007R	家庭用ヒートポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠	JRA4050:2007R	家庭用ヒートポンプ給湯機	JRA4050:2007Rに準拠
						一般地仕様、標準世帯、保温あり、多缶	貯湯容量	320L以上550L未満 320L以上550L未満	S-007091 S-007092	3 3	-	年間給湯保温効率（太陽熱部分除く）	標準規格による評価	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠	JISC9220:2011	家庭用ヒートポンプ給湯機	JISC9220:2011に準拠
L-001520	家庭	給湯	給湯器（ヒートポンプ・ガス式）	ハイブリッド給湯機（家庭用）	ヒートポンプ給湯機とガス給湯器に貯湯タンクを組み合わせた家庭用給湯システム。ヒートポンプ給湯機が記録・学習した湯の使用状況に基づいて、ヒートポンプ給湯機を最も高効率となる沸き上げ温度で稼働させ、湯の使用状況に応じてガス給湯器がバックアップする。これによって過剰貯湯や放熱ロスを低減し、CO2排出削減を実現できる。風呂給湯兼用機、給湯暖房兼用機等がある。	給湯専用機（給湯：ヒートポンプ、ガス）	-	-	S-007093	-	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房兼用機（給湯、暖房：ヒートポンプ、ガス）	-	-	S-007094	-	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠
						給湯暖房兼用機（給湯：ヒートポンプ、ガス、暖房：ガス）	-	-	S-007095	142.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法				試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						風呂給湯兼用機（給湯：ヒートポンプ、ガス）	-	-	S-007096	142.3	-	年間給湯効率	標準規格による評価	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠	JGKAS A705-2016	電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機（ハイブリッド給湯機）の年間給湯効率測定方法	JGKAS A705-2016に準拠
L-001521	家庭	給湯	給湯器（石油式）	石油温水機器（エコフィール）	石油温水機器は灯油を燃料としたバーナによって加熱した高温の空気により配管内の水を温める機器である。	給湯用のもの(風呂給湯含む)	-	-	S-007097	95	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠
						暖房用のもの	-	-	S-007098	93	%	エネルギー消費効率	標準規格による評価	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠	JISS3031:2009	石油燃焼機器の試験方法通則	JISS3031:2009に準拠
L-001523	家庭	給湯	給湯器（太陽熱利用）	真空管形集熱器（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。真空管形は集熱部が真空層を有する二重ガラスで構成され、真空層が空気対流による熱損失を防ぐことができる。外気温との温度差が大きい場合でも集めた熱が外へ逃げにくく、高い効率を維持できる。	-	-	-	S-007099	12694 *	kJ/m2・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠
L-001524	家庭	給湯	給湯器（太陽熱利用）	平板形集熱器（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	太陽の光エネルギーを熱エネルギーに変え、水などの熱媒に伝える役割の装置。平板形は集熱面が平板状になっており、表面は透明な強化ガラス板で覆われている。下部には熱が逃げないよう、断熱材が施されている。	-	-	-	S-007100	13954 *	kJ/m2・日	単位面積1日あたりの集熱量	標準規格による評価	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠	JISA4112:2011	太陽集熱器	JISA4112:2011に準拠
L-001525	家庭	給湯	給湯器（太陽熱利用）	蓄熱槽（強制循環型太陽熱給湯器用）（家庭用）	蓄熱槽は、集熱器で集められた熱を熱交換してお湯を蓄える装置。	-	-	-	S-007101	1.54 *	W/K	熱損失係数	標準規格による評価	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	KA＝（V×Cp×ρ（θs－θe））÷（T×⊿θ）⊿θ＝（（θs＋θe)÷2）-（（θ1＋θ2＋・・・＋θn）÷n） KA：熱損失係数[W/K] V：蓄熱槽容量[m3] θs：試験開始時蓄熱媒体温度[℃] θe：試験終了時蓄熱媒体温度[℃] T：試験開始から試験終了までの時間[s] Cp：蓄熱媒体の定圧比熱[J/(kg・K)] ρ：蓄熱媒体の密度[kg/m3] θn：周囲温度[℃] n：１時間ごとに測定した周囲温度の測定回数	JISA4113:2013	太陽蓄熱槽	JISA4113:2013に準拠
								-	S-007102	93.2 *	%	有効出湯効率	標準規格による評価	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002に準拠	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002	太陽蓄熱槽、優良住宅部品性能試験方法書太陽熱利用システム、または有効出湯効率試験	JISA4113:2013、BLT SO:2015、またはSS-TS002に準拠
L-001526	家庭	動力他	テレビ	液晶テレビ	液晶テレビとは表示装置に液晶を用いた薄型のテレビ受信機をいう。従来はバックライトにCCFL(Cold CathodeFluorescent Lamp:冷陰極管)を用いていたが、近年は発光効率の良いLED(発光ダイオード)が主流となっている。	-	サイズ	液晶 18V、19V 型	S-007103	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
								液晶 22V 型	S-007104	-									
								液晶 23V、24V 型	S-007105	-									
								液晶 26V 型	S-007106	-									
								液晶 29V 型	S-007107	-									
								液晶 32V 型	S-007108	-									
								液晶 39V、40V 型	S-007109	-									
								液晶 42V 型	S-007110	-									
								液晶 46V 型	S-007111	-									
								液晶 47V 型	S-007112	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								液晶 50V、52V 型	S-007113	-									
								液晶 55V 型	S-007114	-									
								液晶 58V 型以上	S-007115	-									
L-001527	家庭	動力他	電気便座	電気便座	電気便座は内蔵された電気ヒータにより座面を加温する機能等を持つ便座であり、主に暖房用の便座のみを有する暖房便座と暖房便座に温水洗浄装置を組み込んだ温水洗浄便座がある。さらに、温水洗浄便座の洗浄に使う温水については貯湯タンクをもつ貯湯式と貯湯タンクのない瞬間式※がある。※使用時に瞬間的に温水をつくる方式。貯湯式のようにお湯を保温しないので消費電力量を削減できる。また、便座の暖房機能(保温)については学習機能やタイマーによる低炭素技術が導入されており、さらにセンサーが人の動きを感知し、瞬間的に便座を温める、瞬間暖房便座機能が付随しているものもある。	-	-	-	S-007116	-	kWh/年	年間消費電力量	標準規格による評価	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める計算式	-	省エネルギー法	省エネルギー法で定める試験条件
L-001531	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	燃料電池	固体酸化物形燃料電池（SOFC）設備	電解質を挟んだ二つの電極に酸素と水素を供給して電気と熱を発生させる。燃料極、空気極という2枚の電極が、電解質を挟んでいるものをセルといい、セル単体を積み重ねたものをセルスタックという。セルを直列に接続することで、高い電圧と大きな電力が得られる。	-	出力	200kW以下	S-007117	55.6 *	%	発電効率	標準条件による評価	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物形燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	η=(Wout-Win)/Qf×100、η:発電効率[%]、Wout:送電電力量[kWh]、Win:受電電力量[kWh]、Qf:積算燃料消費熱量（低位発熱量）[kWh]	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013	小形固体酸化物形燃料電池システム-第3部：性能試験方法及び環境試験方法及び固体酸化物形燃料電池単セル及びスタックの発電性能試験方法	JISC8841-3:2011及びJISC8842:2013に準拠
								200kW超250kW以下	S-007118	55.1 *									
L-001534	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・単結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。単結晶系は、高純度の単結晶のシリコン基板を使用した太陽電池。実用化されている太陽電池の中で最も変換効率が高く、耐久性・信頼性にも優れている。	-	-	-	S-007119	22.63 *	%	セル実効変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8914：2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914：2005に準拠
								-	S-007120	21.2	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914:2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914：2005に準拠
L-001535	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	太陽光発電	太陽電池(シリコン系・多結晶)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。結晶の粒径が数mm程度の多結晶シリコンを利用した太陽電池。変換効率の面では単結晶と比較して低いが、単結晶より製造工程が簡便であるため、効率とコストのバランスが良く、普及が進んでいる。	-	-	-	S-007121	16.4	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914：2005に準拠	JISC8914:2005	結晶系太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8914：2005に準拠
L-001536	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	太陽光発電	太陽電池(化合物系)	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。本項目では、主成分に銅(Cu)、インジウム(In)、ガリウム(Ga)、セレン(Se)を用いた化合物であるCIGS系について記載する。薄膜で省材料などの長所をもち、わずか2～3μmの厚さであっても光を十分吸収するため、薄膜太陽電池としては高い変換効率が得られる。	-	-	-	S-007122	15.1	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8939:2013	薄膜太陽電池モジュール	JISC8939:2013に準拠
L-001537	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	太陽光発電	太陽電池（薄膜シリコン）	太陽電池は、光の持つエネルギーを、直接的に電力に変換する装置である。太陽電池内部に入射した光のエネルギーは、電子によって直接的に吸収され、PN接合の界面にあらかじめ設けられた電界に導かれ、電力として太陽電池の外部へ出力される。薄膜系は、ガラス、金属箔、フィルムなどの上に2～3ミクロンの太陽電池の層を形成させるものである。	-	-	-	S-007123	9.6	%	モジュール変換効率	標準規格による評価	JISC8960:2012	太陽光発電用語	JISC8960:2012に準拠	JISC8935:2005	アモルファス太陽電池モジュール出力測定方法	JISC8935：2005に準拠

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表 情報No	L2-Tech 水準	指標									
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
L-001538	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	太陽光発電	トランスレス方式パワーコンディショナ（太陽光発電用）	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を調整するコンバータ、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。トランスレス方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータのみで行う方式であり、高周波変圧器絶縁方式に比較し、高効率となるものの電力会社系統との連系には、別途を変圧器が必要となる。	-	出力	10kW未満	S-007124	98	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	ηR=P0/ Pi×100、ηR:定格負荷効率[%]、P0:定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、Pi:定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠
								10kW以上	S-007125	98.4										
L-001539	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	太陽光発電	高周波変圧器絶縁方式パワーコンディショナ（太陽光発電用）	太陽光発電用パワーコンディショナは、直流電力を交流電力に変換するインバータ、事故時等に系統を保護する系統連系保護装置で構成される。直流電力を交流電力に変換する際に損失が生じることから、変換効率（定格負荷効率）の高いパワーコンディショナの選定が重要となる。高周波変圧器絶縁方式は、パワーコンディショナ内の直流電圧調整をコンバータと変圧器の組み合わせで行う方式であり、トランスレス方式に比較し、電力変換効率は低下するが、パワーコンディショナから出力された電力はそのまま電力会社系統と連系可能となる。	-	-	-	S-007126	96.5	%	定格負荷効率	標準規格による評価	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	ηR=P0/ Pi×100、ηR:定格負荷効率[%]、P0:定格負荷容量におけるパワーコンディショナの出力[kW]、Pi:定格負荷容量におけるパワーコンディショナの入力[kW]	JISC8961:2008	太陽光発電用パワーコンディショナの効率測定方法	JISC8961:2008に準拠
L-001546	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	水力発電	プロペラ水車（小水力発電用）	水を取り込むケーシングから案内羽根を経て下向きの水流に変化させ、羽根車の軸方向に流れてこれを回転させる。落差と流量変化によって羽根の角度を自動的に調節できる可動羽根のものはカプラン水車として区別され、プロペラ水車は常に一定の角度の固定羽根のものを指す。	-	出力	200kW未満	S-007127	80 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	η＝（1,000×P）÷（g×ρ×Q×H）、η：水車効率[%]、P ：水車出力[kW]、g ：重力加速度[m/s2]、ρ：水の密度[kg/m3]、Q ：流量[m3/s]、H ：有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠
L-001547	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	水力発電	フランシス水車（小水力発電用）	水を取り込むケーシングの中に羽根車（ランナー）を設置し、そこを流れる水の圧力により回転させる水車である。最も一般的な水車で、数10m～数100mの落差に広く使われている。	-	出力	200kW未満	S-007128	85 *	%	水車効率	標準規格による評価	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	η＝（1,000×P）÷（g×ρ×Q×H）、η：水車効率[%]、P ：水車出力[kW]、g ：重力加速度[m/s2]、ρ：水の密度[kg/m3]、Q ：流量[m3/s]、H ：有効落差[m]	JEC4002:1992	水車およびポンプ水車の効率試験方法	JEC4002:1992に準拠
L-001551	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	地熱発電	温水熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として温水を利用する。	100℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	S-007129	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P ：送電端出力[kW]、Q ：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：95℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007130	-										
								6.5kW以上45kW未満	S-007131	6.2 *										
								45kW以上100kW未満	S-007132	6.2 *										
								100kW以上200kW未満	S-007133	6.8 *										
								200kW以上300kW未満	S-007134	-										
						100℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	S-007135	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P ：送電端出力[kW]、Q ：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：95℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007136	-										
								6.5kW以上45kW未満	S-007137	6.2 *										
								45kW以上100kW未満	S-007138	6.8 *										
								100kW以上200kW未満	S-007139	6.83 *										
								200kW以上300kW未満	S-007140	-										

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
						100℃以上120℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	S-007141	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：95℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007142	-									
								6.5kW以上45kW未満	S-007143	-									
								45kW以上100kW未満	S-007144	-									
								100kW以上200kW未満	S-007145	-									
								200kW以上300kW未満	S-007146	-									
						100℃以上120℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	S-007147	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：115℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007148	-									
								6.5kW以上45kW未満	S-007149	-									
								45kW以上100kW未満	S-007150	-									
								100kW以上200kW未満	S-007151	-									
								200kW以上300kW未満	S-007152	-									
						120℃以上250℃未満、200V/220V	出力	3.0kW未満	S-007153	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：245℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007154	-									
								6.5kW以上45kW未満	S-007155	-									
								45kW以上100kW未満	S-007156	-									
								100kW以上200kW未満	S-007157	-									
								200kW以上300kW未満	S-007158	-									
						120℃以上250℃未満、400V/440V	出力	3.0kW未満	S-007159	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	送電端発電効率の算出にあたっては、温水入口温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。温水入口温度：245℃以下、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007160	-									
								6.5kW以上45kW未満	S-007161	-									
								45kW以上100kW未満	S-007162	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力(名称)	クラス 能力(単位)			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								100kW以上200kW未満	S-007163	-									
								200kW以上300kW未満	S-007164	-									
L-001552	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	地熱発電	蒸気熱源小型バイナリー発電設備	バイナリー発電は、水よりも沸点の低い二次媒体を使うため、より低温の地熱流体での発電に適しており、地熱流体で温められた二次媒体の蒸気でタービンを回して発電する。生産井から地熱流体を取り出し、地熱流体で二次媒体を温め、蒸気化し、二次媒体の蒸気でタービンを回転させ発電する。二次媒体を温めた後の地熱流体は、還元井から地下に戻し、発電し終わった二次媒体は、凝縮器で液体に戻し、循環ポンプで再度、蒸発器に送る。熱源として蒸気を利用する。	200V/220V	出力	3.0kW未満	S-007165	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口蒸気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。入口蒸気温度：130℃以下、出口ドレン温度：36℃以上、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007166	-									
								6.5kW以上45kW未満	S-007167	-									
								45kW以上100kW未満	S-007168	-									
								100kW以上200kW未満	S-007169	-									
								200kW以上300kW未満	S-007170	-									
						400V/440V	出力	3.0kW未満	S-007171	-	%	送電端発電効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	η＝P/Q×100、η：送電端発電効率[%]、P：送電端出力[kW]、Q：入熱量(低位発熱量)[kW]送電端出力＝（発電端出力）－（作動媒体ポンプ、インバータ、（絶縁トランス）、ほかユニット内消費電力）	環境省により独自に設定された方法	-	蒸気送電端発電効率の算出にあたっては、入口蒸気温度、出口ドレン温度、冷却水入口温度を次のとおり設定することを条件とする。入口蒸気温度：130℃以下、出口ドレン温度：36℃以上、冷却水入口温度：20℃以上
								3.0kW以上6.5kW未満	S-007172	-									
								6.5kW以上45kW未満	S-007173	-									
								45kW以上100kW未満	S-007174	-									
								100kW以上200kW未満	S-007175	10.97 *									
								200kW以上300kW未満	S-007176	-									
L-001555	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	バイオマス発電	ガスエンジン発電設備（メタン発酵発電用）	バイオメタンガスを燃料にシリンダー内部で燃料の爆発（膨張）を発生させ、その圧力でピストンを往復動させ、その往復動を回転エネルギーに変える発電装置。ストイキオメトリ燃焼（理論空気で混合したガスが完全燃焼する方式）、リーンバーンと呼ばれる希薄燃焼の二つの方式があり、最近では予混合圧縮自着火燃焼といわれる高圧縮による自然着火でシリンダー内全体をメラメラと燃える点火プラグを用いないものが環境面や高効率化で注目を集めている。	50Hz	出力	100kW未満	S-007177	84 *	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	ηt.out=ηout+ηh（発電端）、ηt.out：発電端総合効率[%]、ηout:発電効率[%]、ηh：熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。
								100kW以上1000kW未満	S-007178	41.8 *									
								100kW未満	S-007179	32	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	ηout=（3.6×Pout）÷（Hf×Ff）×100 ηout:発電効率[%] Pout:発電出力（発電端）[kW] Hf:燃料の低位発熱量[MJ/m3N] Ff：燃料消費量[m3N/h]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠 メタン濃度は60%を試験条件とする。
								100kW以上1000kW未満	S-007180	38.8									
						60Hz	出力	100kW未満	S-007181	84 *	%	総合効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	ηt.out=ηout+ηh（発電端）、ηt.out：発電端総合効率[%]、ηout:発電効率[%]、ηh：熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。
								100kW以上1000kW未満	S-007182	-									

L2-Tech リストNo	区分			設備・機器等の名称	原理・しくみ	クラス			L2-Tech 水準表情報No	L2-Tech 水準	指標								
											測定単位		評価方法のタイプ	計算方法			試験条件		
	部門1	部門2	技術分類			条 件	クラス 能力（名称）	クラス 能力（単位）			単 位	名 称		準拠する規格	規格の名称	計算式	準拠する規格	規格の名称	説 明
								100kW未満	S-007183	32	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	ηt.out=ηout+ηh（発電端）、ηt.out：発電端総合効率[%]、ηout:発電効率[%]、ηh：熱出力効率[%]	JIS8122:2009	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2009に準拠、メタン濃度は60%を試験条件とする。
								100kW以上1000kW未満	S-007184	-									
L-001556	エネルギー転換	事業用発電（再エネ）	バイオマス発電	ディーゼル発電設備（バイオディーゼル燃料専用）	ディーゼルエンジンを主機関とする発電機であり、軽油や重油の代わりにバイオマスディーゼル燃料を用いる。バイオマスディーゼル燃料の使用によりCO2削減を実現するほか、非常時のバックアップや電力消費のピークカットに貢献する。	50Hz、燃料の種類：バイオマスディーゼル燃料	出力	22kW未満（25kVA未満）	S-007185	33.1 *	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	ηout=（3.6×Pout）÷（Hf×Ff）×100 ηout：発電効率[%]、Pout：発電出力（発電端）[kW]、Hfl：燃料の低位発熱量[MJ/m3N]、Ff：燃料消費量[m3N/h]	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2019に準拠。使用するバイオディーゼル燃料濃度を100%とする
								22kW以上74kW未満（25kVA以上80kVA未満）	S-007186	48 *									
								74kW以上368kW未満（80kVA以上400kVA未満）	S-007187	48.9 *									
								368kW以上（400kVA以上）	S-007188	46 *									
						60Hz、燃料の種類：バイオマスディーゼル燃料	出力	22kW未満（25kVA未満）	S-007189	32.3 *	%	発電効率	標準規格による評価	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	ηout=（3.6×Pout）÷（Hf×Ff）×100 ηout：発電効率[%]、Pout：発電出力（発電端）[kW]、Hfl：燃料の低位発熱量[MJ/m3N]、Ff：燃料消費量[m3N/h]	JIS8122:2019	コージェネレーションユニットの性能試験方法	JIS8122:2019に準拠。使用するバイオディーゼル燃料濃度を100%とする
								22kW以上74kW未満（25kVA以上80kVA未満）	S-007190	46.1 *									
								74kW以上368kW未満（80kVA以上400kVA未満）	S-007191	42.7 *									
								368kW以上（400kVA以上）	S-007192	45.9 *									
L-001558	エネルギー転換	地域熱供給	熱輸送	潜熱蓄熱輸送設備	潜熱蓄熱材（PCM:Phase Change Material）をコンテナに充填し、PCMの融解熱として高密度に熱エネルギーを蓄えて、車輌により広範囲に熱を供給する技術。	-	蓄熱容量、排熱源温度	蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃以上	S-007193	11.2 *	[εq]	エネルギー効率	標準条件による評価	環境省により独自に設定された方法	-	エネルギー効率[εq]＝Qout／Qin、投入エネルギー量[Qin]＝熱回収に要するエネルギー量（Qstorage）、＋熱輸送に要するエネルギー量（Qtransfer）、＋熱供給に要するエネルギー量（Qsupply）、熱供給量（Qout）＝需要先にて供給した正味の熱供給量	環境省により独自に設定された方法	-	エネルギー効率の算出にあたっては、供給距離、車両燃費、供給温度を次のとおり設定することを条件とする。供給距離：10km、車両燃費：蓄熱容量850kWh以上　2.5km/l、蓄熱容量850kWh未満　4.0km/l
								蓄熱容量850kWh以上、排熱源温度130℃未満	S-007194	8.8 *									
								蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃以上	S-007195	6.8 *									
								蓄熱容量850kWh未満、排熱源温度130℃未満	S-007196	4.8 *									
L-001579	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備HAP法（し尿・浄化槽汚泥用）	りん酸を含む汚水の生物処理水に対して、晶析槽においてカルシウム材を添加し、ｐH調整することによりHAP(ヒドロキシアパタイト、(Ca10(PO4)6(OH)2)の結晶を析出させる方法。回収したリンは副産りん酸肥料として再利用可能。	-	-	-	S-007197	80 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	（晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度）/晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳　し尿：浄化槽汚泥＝４：６、し尿T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合PO4-P濃度：112mg/l
L-001580	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備MAP法（し尿・浄化槽汚泥用）	りん酸を含む汚水に対して、晶析槽においてマグネシウム材を添加し、ｐH調整することによりMAP(リン酸マグネシウムアンモニウム、(MgNH4PO4)の結晶を析出させる方法。回収したリンは化成肥料として再利用可能。	-	-	-	S-007198	75 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	環境省手引き	リン回収・利活用の手引き	（晶析槽入口PO4-P濃度-晶析槽出口PO4-P濃度）/晶析槽入口PO4-P濃度	環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課	リン回収・利活用の手引き	処理量の内訳　し尿：浄化槽汚泥＝４：６、し尿T-P濃度：270mg/L、し尿PO4-P濃度：189mg/L、浄化槽汚泥T-P濃度：150mg/L、浄化槽汚泥PO4-P濃度：60mg/L、混合T-P濃度：198mg/L、混合PO4-P濃度：112mg/l
L-001581	廃棄物・リサイクル	リサイクル	リン回収設備	リン回収設備MAP法（下水汚泥用）	脱水ろ液からリン回収する従来事例に対し、よりリン含有量の高い下水汚泥からMAP（リン酸マグネシウムアンモニウム）として回収する「MAP法」が平成24/25年度国交省B-DASH採択事業で開発された。回収したリンは配合肥料（化成肥料）として再利用可能。	リン濃度低減の高度処理がおこなわれていること、汚泥は消化処理がおこなわれていること	-	-	S-007199	90 *	%	PO4-P除去率	標準条件による評価	国土交通省ガイドライン	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン（案）	（消化汚泥PO4-P濃度-リン処理PO4-P濃度）/消化汚泥PO4-P濃度	国土交通省国土技術政策総合研究所	資料No.805 B-DASHプロジェクト NO.6 2014年8月消化汚泥からのリン除去・回収技術導入ガイドライン（案）	消化汚泥濃度（TS）：1.7%、消化汚泥T-P濃度：600mg/L、消化汚泥PO4-P濃度：200mg/L
L-001583	廃棄物・リサイクル	リサイクル	選別機	近赤外線樹脂選別機	プラスチックに近赤外線を照射すると材質により吸収される波長が異なることを利用し、特定の材質の選別を行う。コンベア先端のエアノズルで吹き落とし選別する。PVC,PVDC除去（サーマルリサイクル）やPP,PS,ABS選別（マテリアルリサイクル）に使用される。	-	-	-	S-007200	3	種類	選別樹脂種類数	標準条件による評価	環境省交付規定	H27年度二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金（省CO2 型リサイクル高度化設備導入促進事業）交付規定	選別樹脂種類数に残渣は含まない	環境省により独自に設定	-	選別純度：99%、（ベルトコンベア幅100mmあたりの樹脂の投入量が50kg/h以内の場合）

別紙

No.	設備・機器等	クラス		L2-Tech水準	備　考
		条件	能力		
S-006811	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	空気熱源仕様	-	下記の①～⑥の条件を満たすBEMSサービスであること。 ①冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、外気温度、を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない	複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。 事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。 文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。 要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能
S-006812	BEMS（制御サービス・空調・熱源・中央方式）	水熱源仕様	-	下記の①～⑥の条件を満たすBEMSサービスであること。 ①冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度、熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量を計測できる機能を保有 ②上記①の計測粒度が1分単位以内であること ③冷水負荷熱量、冷水出口温度、冷却水入口温度、外気温度を説明変数として、合計のエネルギー消費量（熱源機エネルギー消費量、熱源補機エネルギー消費量、冷水ポンプエネルギー消費量、冷却水ポンプエネルギー消費量の合計）が最小となるような冷水出口温度を（過去の実績データに基づいて）自動で算出できる機能を保有 ④上記③の算出結果に基づいて冷水出口温度を自動制御できる機能を保有 ⑤導入可能な施設が、限定されない	複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「BEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。 事例調査の結果、BEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い中央方式の空調機を対象とした制御サービスを認証対象として設定した。 文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記の通りとし、本リストでは下記の「要件0」及び「要件1」に基づいて水準を設定している。 要件0（必須）：導入可能な施設が限定されない 要件1：セントラル空調システム全体のエネルギー消費量が最小となる負荷熱量を自動で算出し、それに基づいて自動的にシステムを制御可能
S-007050	HEMS（情報提供サービス・家電全般）	-	-	下記の①～⑥の条件を満たすHEMSサービスであること。 ①対象住宅全体の電力消費量を、30分単位以内で計測できる機能を保有 ②上記①において計測したエネルギー消費量と、他住宅で計測したエネルギー消費量を比較し、対象住宅全体のエネルギー消費量のランキング情報を表示できる機能を保有 ③上記②のランキング情報を、対象住宅におけるユーザー属性別※に表示できる機能を保有　※地域別、間取別、家族構成別の3種いずれも ④導入可能な住宅が、単一の住宅メーカーが供給する住宅に限定されない ⑤導入の際にインターネット接続サービスへの加入が必要な場合、集合住宅向け全戸一括契約型へのサービス加入を前提としない	複数の設備・機器等及び事業者にまたがりサービスが提供されるケースが存在するため、「HEMSサービス」を認証単位とした。その上で、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。 事例調査の結果、HEMSサービスには、情報提供サービス及び制御サービスが存在するが、中でも提供件数の最も多い家電全般を対象とした情報提供サービスを認証対象として設定した。 文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、サービスにおいて求められる機能要件は、下記のいずれかとし、本リストでは「要件0」および「要件3」を対象とし水準を設定している。 要件0（必須）：導入可能な住宅が限定的されていない 要件1：現状のエネルギー消費量に応じて省エネアドバイス、および目標の省エネ量が提供可能 要件2：現状の光熱水道費に応じて節約アドバイス、および目標の節約額を提供可能 要件3：エネルギー消費量が類似している世帯との比較情報の提供が可能 要件4：過去のサービス利用履歴の情報に基づいて、より興味・関心の強い情報の提供が可能 要件5：現状のエネルギー消費量が自身の平均的な消費量と比較して多くなったタイミングで、消費量が多いことを閲覧頻度が多い媒体へPush配信可能
S-006909	内部熱交換最適化蒸留システム	蒸留塔が高圧部（濃縮部）と低圧部（回収部）とで物理的に分離しており一体型でないもの	-	下記の①および②の条件を満たす蒸留システムであること。 ①高圧部と低圧部とで熱交換できる機能を保有 ②蒸留塔内部の熱分布を調整し熱交換率を最適化できる機能を保有	本設備・機器等は、個別受注設計生産されるため標準条件（試験条件、計算方法）を設定し、定量評価する方法はそぐわないと判断し、審査・認証の実現可能性の観点から「具備機能による評価」を行うこととした。 文献調査及び企業・有識者へのヒアリングに基づき、本設備・機器等として求められる機能要件をL2-Tech水準とした。